

萬般の業務、駸々乎として進歩するの今日に於て、農事のみを偏重偏尊して其の他の産業を措きて問はず、天然の力を重じ人工の妙を輕じて眞の殖産興業の道を講せざることあらば、縦令貧弱究乏の苦境に陥らずとするも、富强盛大は得て望むべからず、一國の隆盛を望まば、其の要素の調和發達するを務めざるべからず、忠君愛國、進取活潑、忍耐不撓の氣力を養ひ以て國民の精神を振起せしむると同時に殖産興業の道を講じて國民の富力を増進せしめざるべからず、之に加ふるに政令は嚴肅にして擁護の任務を盡し軍備は充實して内外を鎮壓するに足るものあらば、國家の隆盛強大は期して待つべきなり、されば地理科に於て我が國の生業の情態を記述し其の盛なると否ざるとを知らしむるも此を奨め彼を勵ますの一助に供するにあり

其一 森林業

森林業とは有用なる樹木を蕃殖せしめ以て其の効力を充分に奏せしむるにあり、抑、森林の主要なる効用を擧ぐれば、先づ木材薪炭を供し又其の副産物として椎茸、松茸等の食用物及び醋酸、樟腦等の薬用品を與ふるが如き、直接の効用あるのみならず、樹木の繁茂は太陽の光熱を遮止し冷風を貯ひ涼氣を四圍に送りて氣候の炎暑を調和し、或は降雨に遇ふに當りては、其の乾燥すること遲きが故に常に水分を湛へて水源を涸らすことなからしむ、或は春夏の候、百花娟妍、綠葉鬱蒼として山麓河岸を粧ひ吾人をして風光明媚の感を起さしむ、故に森林は氣候を調和し水源を涵養し風致を増す等の間接の功用ありとす

吾が國にては林業は古來より行はるゝものならんれども、願ふに

天然に生育したるものを伐採するに止まり、勞役を費して之を培養せしに非ざるべし、而して未開の世の常として我が國に於けるも、古來、森林を濫伐したるの弊、頗る甚だし、此の如くして荏苒數十百年を経過すれば遂に山野を兀赭にして富源を耗盡するに至るも計るべからず。森林の茂生する場處は山地なることあり、又は平地なることあり、是に依りて森林を分ちて山林と平林との二種とす、然るに地味は概して山地に礫確にして平地に肥沃なるが故に、農耕の開けたる地方にありては平地を田畝に供し、樹木の培養は主として山地に於てす、然れども未だ開けざる地方にありては平地の需用少きを以て山地と平地との別なく樹木の存するあり。

樹木の生育を計る方法に由りて天然林と樹藝林との二種に區別すべし、天然林とは人力の保護を仰ぐことなく自然の繁茂に任ずるものに

して、從て良材、雜木相混同せり、例へば南アメリカの大森林若しくは我が北海道の森林の如き是れなり、樹藝林とは林業を營むもの、自ら勞力して或は良種を播施し或は地味に適切なるものを栽培し或は腐幹を除き冗枝を去りて保護を加ふるものなり、從て木質善良にして丈幹も亦長大なるものを得べし。

本邦の森林は其の所屬に關して御料林、官林、官有林、民有林との四種に區別す、御料林は帝室の御領なり、官林は保存林と共用林との二種あり、官有林は農商務省の所轄にして、官有山林は道廳府縣の所轄なり、又民有林とは人民の私有に屬するものを云ふなり。

四種の森林の町歩の總計を求むれば左表の如し

御料林	二五〇、〇〇〇	木曾 天城
官林	七二七、九〇一九	秋田大林區(二〇八) 青森大林區(九二) 長野大林區(九一)

官有山林	四四五、二九一九	北州島(三九六)	本州島北部(二四)	琉球(一七)
民有林	六六三、八八五二	岩手(四二)	廣島(四〇)	兵庫(三九)
總計	二〇八七、〇八九〇			

此等の森林より收得する所の利益は官林に就きては凡そ百萬圓、官有山林に就きては凡そ六萬圓なりとす、然れども御料林并に民有林の収入を詳にせざれば茲に精確なる合計を掲ぐるを得ざれども、其の高は少なくとも五六百萬圓に達するなるべし。

又森林より生出する所の物産は木材としては松、杉、樅、檜、檜、樺等を得、薪炭用としては檜、桐、松等を得、而して副産物としては樟腦、醋酸、松脂、松煙、椎茸等を得べし。

其一一 養畜業

養畜業とは家禽、家畜、蜜蜂等を養ふ事業を總稱せしものなり、家畜と

は牛、馬、豚、羊の如きものを云ひ、家禽とは鶏、家鴨の類を云ふ、養畜業に由りて得たる産物は或は食料に供し、或は工藝に用ふ、其の他家畜の種類に依りては勞役に服せしむるを得べし、夫れ此の如く養畜業は人生に有益なる生業たるに拘らず、我が邦にては此の業未だ振はず、これを海外諸國に比すれば遙に劣等の地に位せり、今其の理由を考ふるに我が邦にては米穀、蔬菜、魚肉を以て一般の常食とし、却て鳥獸の肉の如き滋養に富めるものを用ふること稀なるは其の一因たらずんば、又牛馬の如き之を使役して吾人の力役を助けしめざるに非ざれども、我が邦の勞働賃銀は頗る廉價なるのみならず、工藝も未だ隆盛に至らずして勞力を需要すること至りて少なきが故に、多く牛馬を蕃殖せしめて勞役を補はしむるの必要を見ること尠なし、是れ亦一の原因ならんか。

牛。我が國にて牛を飼養するの多少は地方に由りて一様ならず、是其の地の氣候若しくは習慣に關するなるべし、而して古來我が國にては牛を飼ひて耕用、駄用等の力役に服せしめしに過ぎざりしが、近來は肉食漸く行はれ、牛肉、牛乳の滋養に富めるを了知するに至れるを以て牛類を飼養するものは少しく増加せしが如し

我が國の牛の現存總數は僅に百十萬頭にして牛を飼養すること稍多き地方を擧ぐれば左の如し、但し括弧内の數は萬を以て單位とせり

岡山(八、七)

廣島(八、二)

兵庫(七、四)

大分(七、三)

鹿児島(七、二)

長崎(六、五)

山口(六、三)

而して但馬、肥前の牛は良種を以て名あり

馬。馬を飼養する目的は牛と異なり敢て食用に供するに非ず、主として力役に使用するにあり、或は駄馬として貨物を運搬せしめ、或は農

馬として田圃を耕作せしめ、又は乘馬として軍人、旅客の騎行に用ふるにあり、而して我が國に産する馬の品種は概して驅幹矮小にして優等ならず、左に全國の馬數及び之を飼養すること稍著しき地方を擧げたり、但し括弧内の數は萬位を以て單位とせり

總數 一五五、二五三〇

鹿児島(二二)

熊本(二二)

岩手(二〇)

福島(九)

秋田(八)

而して南部、三春の馬は良種として名を知られたり

豚。豚を飼養するは牛馬を養ふが如き注意と煩冗とを要せず、隘陋なる場所に於て粗雑なる食物を與ふるも尙可なり、此の如く餌養法の容易なると収益の尠少ならざるに拘らず、我が國に於て豚の飼養未だ隆ならざるは前にも述べし如く肉食の風習なきと一般に養畜の効力を知らざるに歸せざるを得ず、現今全國の豚數は凡そ七萬頭に過ぎずして之を飼養する重なる地方を鹿児島、沖縄、千葉、長崎、東京、神奈川

宮崎等とす

鶏、鶏は家禽中最、多く我が國に飼養せらるるものなれども之を歐洲諸國に比較すれば亦實に微々たるものなり、夫れ鶏、家鴨の如く滋養の功を有し美味の能あるものの飼育が殆く行れざるは慨嘆に堪へざるなり、又家禽に關しては充分なる統計表なきが故に其の詳細を知る能はずと雖ども其の數は一千萬以上に達すべし而して最、多く飼養する地方は千葉縣にして之に次ぐは埼玉、兵庫、茨城の諸縣なりとす

蜜蜂、蜜蜂とは蜂、蜜と稱する糖分と蜜、蠟と稱する油脂を與ふる昆蟲にして蜂の一種なり、蜂蜜、蜜蠟は共に藥用又は工藝用に供すべし、然れども我が國に於ては蜜蜂を飼養すること多く行はれず、唯、紀伊、薩摩、信濃、甲斐の數國に於て少しく其の飼養を觀るのみ

其三 養蠶業

養蠶業なるものは蠶蟲を飼養するにあり、而して蠶蟲には家蠶、天蠶、柞蠶等の數種あり、家蠶は桑葉を以て之を養ひ、其の他は樗、樟、桐等の葉を以て之を養ふものとす

此等數種の蠶蟲の中にて其の飼養の最、盛なるは家蠶なり、從て桑樹の栽培頗る多く、養蠶の進歩發達すると共に、日を追ふて隆盛に趣けり、而して桑樹の植附反別は全國にて二十六萬町歩なり、又其の府縣別に依りて桑畑の多きものを擧ぐれば左の如し

- 岐阜(三、六) 群馬(三、〇) 福島(二、七) 長野(二、三) 山梨(二、二) 埼玉(一、六)
- 神奈川(一、五) 山形(一、二) 但し括弧内の數は萬位を以て單位とせり

本業に依りて得る所の繭は凡そ百五十萬石にして繭、玉繭、屑繭、出殻

繭等を包含せり而して産繭の盛なる地方は次の如し

長野(三三) 群馬(一五) 福島(二三) 埼玉(九) 岐阜(七、二) 神奈川(七)

滋賀(五、九) 山形(五) 但し括弧内の數は萬位を以て單位とせり

繭を得たるの後、多少の人工を加ふれば蠶絲と成り真綿と成る又蠶絲の内にて主要なるものを生絲とす又屑絲の内には鬘斗絲、玉絲等の數種あり

蠶絲の總産額は百六十五萬貫にして生産の多き地方は次の如し

群馬(三四、三) 長野(三三、二) 福島(一〇、二) 神奈川(八、四) 山梨(八、四)

岐阜(七、六) 埼玉(七、〇) 滋賀(六、六) 山形(五、三)

但し括弧内の數は萬貫を以て單位とせり

次に真綿の總産額は五萬七千貫にして其の主なる産地は福島、滋賀、長野、岐阜、山形等なり、又蠶卵紙は總額二百八十萬枚にして産地の重

なるものは長野、福島、滋賀、群馬、埼玉等の諸縣なり

是に依りて之を觀れば、桑圃の多少に就きて主位を占むる地方は必しも養蠶に就きて主位を占めず、又養蠶に就きては次位にあるも製絲に就きては却て上位にあり、是れ地味の適否若しくは生業の發達如何を表示するに足るものなり、然り而して我が國に於ける製絲業は近來長足の進歩をなし生絲の如き海外に輸出する物品中に於て實に首位を占むるに至れり、然れども製作の方法未だ充分ならざれば外國の市場に於ては常に、イタリ産に拮抗する能はず、又産額に於けるも需要は尙其の増加を促すの餘地ありと云ふ

其四 水産業

水産業とは鹹水と淡水とを問はず、凡て水界にある動植、各種の産

物を捕獲採取し、之に適當の製作を加へて、食料を始とし、其の他の需
要に供するにあり、抑、我が國は四圍に海洋を繞らし、魚介苔藻の類に
富めるを以て、自然の結果として、本業の夙に開け往昔より一の重要な
産業たりしは疑ふべからず、然れども此の業の情態に就きて少しく
細微なる觀察を下だすときは其の規模の狭小にして未だ充分なる發
達を遂げざるの點に於ては、自ら瞭然たるものあり

先づ我が國の漁業の景況に就きて一言せんに、漁戸は凡そ七十萬に
して其の内、凡そ十五萬は採藻に従事せり、又漁人は凡そ二百五十萬に
して其の内、凡そ八十萬は採藻業に就けり而して漁業若しくは採藻業
の盛なる地方を列擧すれば實に次の表を得るなり

漁戸	七〇、二六二〇	採藻業	一五、一三六七	北海道	千葉
		漁業	五五、〇二四三	千葉	長崎
				静岡	島根
				愛媛	北海道

漁人	二五〇、八三六一	採藻業	五六、五三四六	北海道	岩手
		漁業	一九四、三〇一五	長崎	千葉
				愛媛	北海道

漁船	三七、七四九七	採藻業	九六六、〇三八二	北海道	長崎	千葉	熊本	山口	静岡	茨城
漁網	一一六、八六五八	採藻業	一四七四、〇三一一	北海道	千葉	静岡	茨城	愛知	三重	愛媛

是に依りて之を觀れば、我が國の漁業は、他の生業に比して頗る發達し
たるが如き觀を呈すれども、之をエロッパ若しくは北アメリカの諸國に
行はるるものに對照すれば、其の漁船、漁具、漁法等總べて未だ幼稚の境
域を脱せざるもの多し、本邦現時の漁業は海濱又は近海に局促し、遠洋
に出でて漁獲を試みるは殆ど絶無なるが如し、之を西洋諸國の漁夫が
萬里の波濤を破りて北洋近傍に勇進し海獸魚類を捕獲して一朝に巨
利を博するものに比すれば固より同日の論に非ず、然れども我が國の
近海は世界屈指の豊魚地たり、假令巨額の遺利ありとするも現今の漁

業に依りて收得する所の利益も亦著大なり、茲に其の概算金額を舉げんに鹹水産物は二千五百萬圓にして淡水産物は百三十萬圓なれば總計は實に二千六百三十萬圓なり而して之を府縣別になし其の重要なものを舉ぐれば左の如し、但し括弧内の數は萬圓を以て單位とせり

北海道(七一七) 千葉(二一六) 長崎(一〇〇) 茨城(九五) 三重(八八) 静岡(七八)
 神奈川(七八) 山口(七八) 新潟(七七) 廣島(六二) 熊本(六二) 岩手(五八)

水産物に製作を施すは其の性質に應じて適當なる製法を施し以て効用を保全して廣く世の需要に供するにあり而して食料品を製するには乾製、鹽製等に依り、肥料品には壓搾、乾製あり、其の他種々の製作を加へて工藝用、若しくは製藥料に供せり

食料品の内にて乾物類には鯉節、鮪節、乾鰯、田作、乾鱈、乾鱈、乾鱈、乾鱈、煎海鼠、乾蝦、鱈鱈、乾鮑、揚卷、淡菜、貝柱、乾馬刀等あり、鹽物類には鮭、鱈、鱈、鱈

生

業

鯉、鮪、鱈等あり、苔藻類には昆布、海苔、荒布、和布、海蘆、鹿尾菜、鹿角菜、石花菜等あり、肥料には乾鰯、鰯、鱈、搾滓等あり、其の他、寒天、魚蠟、魚油等あり、今左に重要水産物の産額と産地とを掲げたり(明治二十五年)

- 乾物類 六七八、五五二五^甲 北海道(二〇〇) 千葉(五〇) 長崎(三七)
- 鯉節(二四九) 鰯(九七) 乾鰯(五五) 乾鮑(三四)
- 鹽物類 二五四、一〇六七^甲 北海道(九六) 鹿兒嶋(二四) 石川(一六)
- 鮭鱈(九五、四二〇八) 鰯鱈(四一、九三九〇) 鱈(三二)
- 苔藻類 一七二、三二一三^甲 北海道(七〇) 東京(三二)
- 昆布(六九) 海苔(四八) 石花菜(二七) 海蘆(二二)
- 肥料 四五二、九七六六^甲 北海道(三四〇) 千葉(三五) 茨城(一五)
- 乾鰯(六二) 搾滓(三七四)

此の外に寒天(六二) 魚油(一五)あり

其五 製鹽業

製鹽業は、日常の食料用として欠くべからざるのみならず、防府用若しくは工藝用として必須なる食鹽を採取するの業務なり、食鹽は海水を煮て之を製するの外、又鹽湖、鹽井、鹽泉、鹽山、鹽坑等より取得するあり、然れども我が國に於ては専ら海水に依りて製鹽を爲し、鹽湖、鹽山、鹽坑の如きは絶えてあることなし

製鹽の法に素水製、打水取、溝採法、庵朶製、天日製等の數種あれども本邦に於て主として行はるゝは溝採法にして俗に入濱と稱するものなりとす

本業は昔時より發達せるものにして世に製鹽十州と稱する瀬戸内海沿岸地方に於て最盛なりとす、然れども其の産額は内國の需要に

充つるに止まりて未だ隆盛を究むと云ふを得ず、殊に其の品質に至りては概々粗雜なりと評するの外なし、而して現今我が國にて需用する食鹽は僅に五六百萬石を以て足れりとすれども、他日に至り大に食鹽を要する事業の起るあるか又は輸出の途の開くるあらば、本業より收得する所の利益は一層の増加を觀るべし、今左に一表を作りて鹽田の面積及び食鹽の産額を示指せん

食鹽總産額

五六五、四四九石 山口(九九) 香川(八三) 廣島(七六) 兵庫(六七)
三五八、四〇九石 山口(六一) 香川(四九) 兵庫(四三) 廣島(三一)

鹽田反別

七五二反 山口(一一〇〇) 兵庫(八四二) 香川(七五六)

食鹽産額

五五七、六九一石 山口(九九) 廣島(七六) 香川(八三)

山鹽々産産額

七、七五五石 巖手(二、五) 鹿兒島(二、一) 静岡(一、一)

其六 農業

我が國は瑞穂國と稱し、古より農業を以て國の本とし、上之を獎勵し下、舉りて耕耘に努力せしが故に、此の業大に發達し生産力の大なる他種の生業に冠絶せり、從て耕地の如きも其の面積、比較的に多く之を田地と畑地とに區別すれば左表を得

耕地 五〇一、二五七五町歩

田地 二七三、四〇三二 新潟(一六七) 福岡(一〇五) 千葉(一〇三) 兵庫(一〇二) 秋田(九八)

畑地 二二七、八五四三 鹿兒島(一六二) 熊本(一〇七) 茨城(一〇二) 埼玉(九八) 長野(九)

農産物の主要なるものは米にして之を國民一般食料の基とす、之に次ぐを麥とし、食料として米の不足を補ふに供す、其の他、穀類には大豆、粟、稗、黍、蜀黍、蕎麥、小豆あり、蔬菜には甘藷、芋、馬鈴薯、蘿蔔等あり、工藝用と

しては實綿、大麻、苧麻、藍草、蓼、藎、藎、檉、楮等あり、其の他に烟草あり、甘蔗あり、果實あり、何れも日常必須のものとする、而して其の産額は年の豊凶に由るものなれば増減の一ならざるは素より論を俟たず、今茲に主要なる食料品に就きて産額を擧げんに

米 三七二〇万石 新潟(二二六) 兵庫(二四八) 千葉(一三四) 富山(一三四)

粳米(三三五〇) 糯米(三四〇) 陸稻(二九七)

麥 一六六三万石 埼玉(二〇二) 茨城(八九) 熊本(八六)

大麥(七一九) 裸麥(六一四) 小麥(三九二)

此の外に穀類にて稍、著しきものを擧ぐれば左の如し

大豆(三二二) 粟(二六二) 稗(一二三) 蕎麥(一二五)

且又蔬菜の中にて最も多量の産あるものを摘記すれば

甘藷 五六七三六万石 鹿兒島(一、〇八〇四) 長崎(七一五二) 熊本(四七三四)

愛媛(三三三六) 千葉(三三六八)
 馬鈴薯 四〇三九
 福島(三三八) 長野(二五二) 宮城(二八二) 青森(二〇七)
 高知(二三五七) 埼玉(二二五〇) 神奈川(二五八) 埼玉(二五二)
 次に工藝用に供する原料を擧ぐれば

實綿 二五八^{五斤} 大坂(二二八) 廣島(二一八) 愛知(八九) 茨城(八二) 鳥取(七六)
 大麻 二七四^{五斤} 廣島(五四) 栃木(四三)
 苧麻(三三) 亞麻(?)

蘭草 三角蘭 大分 福岡
 圓蘭 岡山 廣島

藍葉 一五四^{五斤} 徳島(二八四) 愛知(二四〇) 群馬(九六)
 鹿兒島(九〇) 福岡(八四)

右の外に尙ほ顯著なるものを記すれば
 烟草 七六四^{五斤} 福島(六九) 岡山(六七) 茨城(四七) 廣島(四四) 熊本(四四)

甘蔗 一、三二二^{五斤} 鹿兒島(七五七九) 愛媛(一六四四) 熊本(六四)
 生蠟 三二七^{五斤} 福岡(一三四) 愛媛(六七) 熊本(三〇)
 漆汁 二八^{手許} 茨城 奈良 福島

我が國に於ける農産製品は甚だ盛なるに非ずと雖、亦顯著なる生業たるを失はず而して其の主要なるものは製茶、製糖、醸造等なり

製茶 茶は日常必須の飲料品にして其の需要は内國に限らず又海外に輸出するものとす而して其の製造法に由りて煎茶、玉露、釜蒸、番茶、碾茶、紅茶等の數種ありと雖、現今廣く行はるるは煎茶なりとす

茶類 七八二^{五斤} 静岡(一七〇) 三重(五七) 京都(五四) 廣島(五四) 福岡(三六)
 製糖 世が開明に赴くに從ひて砂糖の需要が愈々増加するは争ふべからざる事實なり、而して内地に産する砂糖は現時の需要を充たすに足らざれば、從來、臺灣島の砂糖を以て本品の不足を補い來りしが今

や該島は帝國の新領土と成りて製糖業に一大變動を與へたり、然れども臺灣島の製糖業に關する調査は之を缺くか故に暫く内地の製糖業の概況を記述せんとす

砂糖を製造する爲に用ふる原料の主要なるものは甘蔗と甜菜との二種にして砂糖の種類には白下、黒糖、糖蜜、三盆等なり而して産地、産額の一斑を掲載すれば左の如し

- 白下 五〇四万石 香川 大坂 愛媛 徳島 宮崎
- 黒糖 五五五 鹿兒島 愛媛 熊本 長崎 福岡
- 糖蜜 一二七 香川 靜岡
- 三盆 一〇 徳島

製油 油は主として藝蓼、綿實、荏實、胡麻等より搾取し食料、燈火用又は工藝用に供せり而して製産地の主要なるもの並に産額は左の如し

- 油類 四五六万石 大坂(五二) 福岡(三八) 三重(三〇) 愛知(二七) 岐阜(二四)

酒類醸造 醸造業は米、麥等の穀物に就きて醱酵作用を起さしめ清酒、濁酒、焼酎、酒精、白酒、味淋、其の他、各種の銘酒を製造する業を云ふ、其の造石高は三百六十萬石なるが就中、清酒の醸造(三百五十萬石)を以て最隆なりとす而して近來ビール需用、頗る増加せしを以て東京、大坂、横濱等に於て其の醸造を見るに至れり

- 酒類 三六〇万石 兵庫(四四) 愛知(一五) 福岡(一四、八) 長野(一四、四) 大坂(一三、五)
- 醬油製造 醬油は食料として必要なるものにて其の製造額も漸次増加するものゝ如し
- 醬油 一二二万石 千葉(一六、五) 兵庫(六、六) 岡山(六、五)

其七 鑛業

鑛業とは地中に埋没せる金銀を始めとし、其の他、人生に有用なる鑛物を採掘し之に多少の人工を加へて製煉を爲すを云ふ。元來我が國は鑛物を産出すること饒多ならざるが故に本業も亦甚だ盛大ならず、抑、鑛物中にて最、貴重なるものを何となすかと云ふに、通常、金銀を以て第一と稱するもの多し、金銀素より貴重ならざるに非ず、然れども最、人生に直接の効用を興へ工業の發達に極めて密接なる關係を有する鑛物は先づ鐵と石炭とに指を屈せざるを得ず、されば鐵と石炭との産額にして巨多なるに於ては國利を増殖する、眞に尠少ならざるべし、悲哉、我が國は鐵の産額頗る尠く、加ふるに金銀の如きも亦其の産額甚だ微々たり、然れども鐵に次ぎて有益なる石炭及び銅の二品には稍、豊富なるが故に少しく慰むる所あるが如し

今我が國の各種鑛物の産額に就きて一言せんに、金屬中にては銅を

第一とす、其の産額は一ヶ年凡そ五百五十萬貫に達し、外國に輸出する唯一の金屬なりと云ふも詛言に非ざるべし、之に次ぐを銀とし、其の産額は凡そ一萬六千貫に達せり、然れどもメキシコ其の他、南アメリカの産銀國に比すれば遙に下位にあり、次を金とすれども産額は僅に二百貫前後に過ぎざれば之をアウストラリア、ロシア等の如き産金國に比すれば著大の差の存するを觀る、而して人生に最、有益なる鐵の産額は五百萬貫に過ぎず、且多くは砂鐵なりとす、抑、砂鐵なるものは土地を荒蕪するのみならず、採鑛の勞費を考ふれば殆ど損益相償ふに足るのみ、斯の如く鐵の産額は甚だ乏しくして國內の需用を充たすに至らず、僅に鍋釜等の鐵器若しくは庖刀、小刀の如き及物を作るの用に供するのみ、其の他、鉛は二十一萬貫を産し、又安質母尼は硫化物を合すれば三十五六萬貫を産出す、

非金屬中にて最も有用なるは石炭なり、英國は自ら黒印度と稱して得々たるは石炭の産出巨多なるを誇るにあり、今蒸氣機關を運轉して百般の工藝に資し、車輪を鐵路の上に馳驅し、船艦を海洋に走行せしむるは、一に石炭の原動力をなすに基づくものなり、石炭の効用も亦重大なりと謂ふべし、我が國に於て石炭の効用を知り、之が採掘に従事せしは三十年以來の事なれども、幸にして九州、北海道、其の他の地方に數箇所、の良煤田を發見し、孜孜として採炭を務めたるを以て現時の産額は八億貫以上に達し、唯に國內の需要を滿たすのみならず支那及び其の他の國に輸出する勢あり、而して炭質に就きては佳良ならざるの缺點あれども、産出額は充分なるが故に常時に於ては競争場裡に立ちて外國炭を壓倒するの餘裕あり、戰時に於るも國の活動力を支持するを得るは敢て疑を容れず、石炭に次ぎて著しきものは硫黄にして其の産額

生

は六百萬貫に達せり、而して其の効用に至りては固より石炭に及ばずと雖、工業用若しくは藥品用として必須なるものたり、其の他、陶土ありて其の産出頗る多し、是れ我が國の名産の一たる、陶磁器の原料なり、要するに我が國の鑛業は甚だ盛なるに非ざるも、其の生産額は一千五百萬圓に達すべし、今左に一表を作りて各種鑛物の産額と重要生産地とを掲げたり

業 五九一

銅	五五三、六〇六	官行	七、三二九	佐渡(五)	生野(二)
		民行	五四六、二七六	栃木(一六八)	愛媛(一一〇)
銀	一、五八六、九〇二	官行	二二八五、一六〇	佐渡(一三九八)	生野(八八六)
		民行	一三五八、三八一	秋田(七八五三)	岐阜(二四一一)
金	一七八、三四八	官行	七二、八八一	佐渡(六一)	生野(一一)
		民行	一〇五、四六七	鹿兒島(五七)	秋田(九)

鐵	五二六、九四一〇	官行	六一、四二三五	廣島
		民行	四六五、四一九二	鹿手(一六四)
石炭	五三三、七〇九	官行	三六五一	筑前 油戸
		民行	五三、〇〇五七	福岡(二八二一)
硫黃	五四六、二八二八	民行	北海道(四七〇)	長崎(一〇一〇)

其八 工藝

工藝は生業中にて最も貴重なるものとせり、其の理由たるや他なし。國力を消耗すること甚だしくして人生に利益を與ふること頗る多きを以てなり、是故に世界中最も有力なる國は工藝の最も隆盛なる國なりと云へり、現にイギリスの如き、今日の隆盛を致せるは工藝の殊に振起せるが故ならん、又ドイツ國の如き、最近戰勝の後、内には工藝の發達を奨励し外には其の製作物の販路を搜索するを以て其の地位を維持

する政策の一とせりと云ふ、抑、工藝は廉價の原料を採り之に勞力を加へて高價の製作品と爲すものなるが故に國力を消盡すること少なく、唯、人民の勞力に對して賠償を求むる外ならず、然るに勞力なるものは殆ど無盡にして絶へず之を供給し得るものなれば、鑛業の如き國の財貨を耗盡するものと同日の論に非ず、されば國利を増殖するの點に於て、工藝品が農産物及び鑛産物の如き原料品に優る所以にして、從て工藝の國家に必要な所以なり。

今翻りて我が國の工藝の發達の程度及び如何なる工藝が最も發達せるやを觀察するに僅に織物業の一あるのみ、抑、本邦の織物業たるや、其の總産額は殆ど五千萬圓に達し、綿布絹布を始めとし其の他、各種の織物を産出するを以て稍、旺盛なるが如き觀あるも之をイギリスドイツの如き大に各種の布帛を織り出だす國に比すれば實に宵壤も

管ならざるべし又世人は動もすれば我が國工藝の隨一として陶磁器の製造を誇るも其の産額に至りては四百萬圓を越ゆるを得ず却て摺附木の製造は近來非常の進歩を爲し其の産額は五百萬圓に達せり實に本邦製の燐寸は東洋に雄飛すと云ふも過言に非ざるなり而して製紙紡績印刷業等の如き工藝が驚くべき進歩を爲したるは頗る喜ぶべしと雖も亦一方を顧みれば漆器の製作は衰頽し製鐵業は振はず殊に金物製作は僅に日常の器具を出だすに止まりて舊觀を改むるの餘地なく銅製の美術的工藝品は稍見るべしと雖も鑄物及物等の拙劣なるは誠に耻づるに堪へたり

我が國にては工藝の本旨を謬りて所謂美術工藝に力を用ふる傾向あるに似たり本邦は古來より美術的工藝に秀ひて遂に世界に對し美術國の名を博するに至りたるは并舞に堪へざる處にして永く此の稱

譽を保存して失はざらんことを勉むるは緊要なりと雖も唯に美術工藝のみを發達するも經濟を裕にし國力を増大ならしむるには決して充分の功ありと云ふを得ず須らく人生に必要にして缺くべからざる物品を製作するに鞠窮し華美粧飾に屬する物を造るに汲々たらざるも敢て妨げなかるべし要するに高價なる美術的名物を造らんよりは寧ろ實用的産物を多量に製するは富國の道に協へりと斷言するを憚らざるなり

茲に各種工藝に就き其の概況を記述せんとす但し統計は主に帝國第十三統計年鑑に依れり

綿絲業 本業には洋製機械取と和製機械取との二種あり一は從來の機械を用ひ一はイギリスドイツなどに行はるる紡績機械を用ふ而して本業は近來非常に發達し日を追ふて進歩するを以て綿絲の輸入

を防遏せんとするの勢あるのみならず尙ほ清國朝鮮の如き近隣諸國に販賣すべき綿布の原料を製作するに至れり、本業の如きは誠に有望の工藝と云ふべし

綿絲産額

一七一〇萬貫
一七六三萬圓

大坂 岡山 東京 愛知 三重

洋製機械取

一〇六六萬貫
一七〇六萬圓

大坂 山岡 東京 三重 愛知

和製機械取

四三七萬貫
五七萬圓

愛知 埼玉 大坂

織物業

本業は日常必須なる各種の布帛を供給するに止まらず、又裝飾的織物の需要に應じ遂に海外諸國に輸出するに至れるを以て、其の産額大に増加し實に他の工藝に冠絶せり、然れども未だ内國の需要の全部を充たすに至らず、彼のモスリン、フラチル、羅紗、毛布、其の他の毛織物は總べて之を外國より輸入せざるを得ず、加之染色法の不完全なる或は暫時にして褪色するあり或は一洗の下に變色するあり、要する

に本業には尙ほ進歩改良すべき餘地の大に存するあるは辯論を俟たずして明なり

織物製造高

四八九四万円

京都(一〇五七) 群馬(四二二) 愛知(三七二) 福井(三一六)
埼玉(二三一) 大坂(二二五) 和歌山(二二三) 栃木(一九五)
奈良(一七三) 岐阜(二二四) 石川(一一八) 新潟(一一五)
滋賀(一一五)

反物

四一三三万円

京都(五二四) 愛知(三七二) 福井(三一六) 群馬(二九八) 埼玉(二二八)

絹織

一六三二

京都(三四七) 福井(二九八) 群馬(二八〇) 山梨(九一) 石川(九〇)

木綿織

一八四〇

和歌山(二二三) 愛知(三〇七) 大坂(一五二) 埼玉(一四三) 奈良(一〇〇)

絹綿交織

三九一

京都(九〇) 岐阜(五七) 愛知(五〇) 栃木(四一) 埼玉(三一)

其他織物

二六七

奈良(七四) 大坂(六二) 滋賀(三九) 東京(一五) 新潟(一一)

帶地

七六二

京都(五三四) 群馬(二二三)

絹織

三〇二

京都(二〇一) 福岡(三三) 神奈川(二二) 群馬(二〇)

木綿織 七一 京都(四二) 岡山(一四)
絹綿交織 三八八 京都(二七五) 群馬(一〇三)

織物の中にて主なる品種を擧ぐれば絹織物には羽二重、縮緬、絲織、甲斐絹、斜子、紗、紹、透綾等あり、木綿物には二子織、綿紬、緋、綿縮等あり、其の他の織物には上布、芭蕉布、葛布等あり、又帶地の主なるものは錦、緞子、縞子、縞子珍、琥珀、博多等なりとす

摺附木製造 摺附木は其の價格の至りて廉なるが故に通常人の冷淡視するものなれども、現今は日常必需品の一にして其の需用多きに依り、本業に従事するの日尙淺きも既に産額は凡そ五百万圓に達せり、是れ畢竟我が國が憐寸を製作するに必要なる木材と硫黄とに富めると同時に勞働賃銀の廉なるに由ると雖も、亦以て實用的工藝の發達の容易にして國利を資するに最も適當なるを觀るに足るものあり、今

左に明治二十五年度の製造の數量と價格とを掲げれば本業の一斑を知るを得んか

摺附木産額 二六一〇、六三〇五圓
四九五、六一六六圓 大坂(一三七三萬圓)
東京(二三五) 愛知(二八九)

抄紙業 本業は往昔より存在せる生業の一なり、楮、三桮、雁皮等を原料として製作するもの即ち和紙には半紙、美濃紙、奉書、檀紙、烏子等あり、其の質概ね美麗堅韌なり、又近來西洋の製紙法に依り、樅、桑、柳、稿、稗、襪襪等を原料に用ひて洋紙を製作す、其の質は軟弱なるの嫌あれども頗る印刷用に適す

紙類産額 五八八万円
和紙 四九一 高知(一〇二) 愛媛(五一) 靜岡(四三) 岐阜(三三) 長野(二八)
洋紙 九七 東京(三八) 福岡(三三) 大坂(三三) 靜岡(二三)

窯業 陶器、磁器、七寶器、玻璃器、煉瓦、石灰、等を製作するを窯業と稱す。而して陶器、磁器の製造の如き古來有名の工藝なれども其の産額は未だ四百萬圓に達せず、七寶焼は中外の譽りて稱賛する所なるも其の性、美術的なれば需用廣大ならず従て産額も亦顯著ならず、玻璃器の製作は進歩遅く煉瓦、石灰の製造は漸次隆盛に赴くが如し。

陶磁器産額 三七八万円 岐阜(一二七) 愛知(八六) 佐賀(四六) 京都(三〇)

陶器 一一一 京都(二二) 愛知(一九) 石川(一一)

磁器 二六五 岐阜(一二三) 愛知(六七) 佐賀(四〇)

漆器製造 漆器は、宇内萬國に比類なき本邦固有の特産たり、然れども工人の多くは舊式を黙守するを以て本業の進歩を見る能はず、而して其の産額を詳にせざるも蓋し二百萬圓内外なるべし、又産地の主なるものは京都、福島、東京、和歌山、大坂、静岡、石川、沖繩等なりとす。

製革業 本邦は天然の奇獸に富まざるが上に牧畜の業も振はざれば、其の結果として本業の大に發達するを得ざるは敢て怪むに足らず、然れども洋靴、革包、革紐等の行はると共に牛革の需用の増すは火を見るより明なり。

革類産額 一四〇万円 大坂(八二)万円 東京(二三) 兵庫(一六)

疊表製作 疊表は日用必須品の一なり、藁草を以て之を製す、藁草に二種あり、其の圓藁は柔軟にして光澤あり上品とす、三角藁は堅韌なれども美麗ならず、普通の需用に適す。

疊表産額 一三三万円 藁 岡山(三七) 廣島(一一)
三角藁 大分(六二) 静岡(一〇)

莫産製作 莫産は從來内國にて多少の需要ありたれども其の産額(一〇一萬圓)の著しく増加せしは海外に輸出するに由らずんばならず。

而して産地は疊表と粗、同様にて即ち左の如し

岡山(四二) 大分(一五) 廣島(一三) 福岡(一〇)
 麥稈紐製造 本業の産額は廿五萬圓なるが主要の産地は次の如し
 岡山(六、九) 愛知(四、八) 静岡(三、九) 東京(二、六)

前記の各種工藝の外に尙ほ數多の工藝あるも其の産額著しからざるか又は詳ならざるを以て今左に稍、著名なるものに就きて主なる産地を掲げ置きて他日の増補を俟つこととせり

銅器 (大坂、京都、石川、富山) 鐵器 (大坂、京都、埼玉、富山、岩手) 刀物 (大坂、東京、岐阜、東) 金物 (大坂、新潟、東京、新潟) 木具 (大坂、東京、愛知、静岡) 竹器 (愛媛、香川、廣島、兵庫、鹿、静岡) 洋傘 (大坂、東京) 和傘 (岐阜、廣島) 扇子、團扇 (大坂、東京、愛知) 提灯 (大坂、岐阜、東京) 書籍 (大坂、東京) 筆墨 (奈良、東京)

其九 商業

商業は生業中最、有力なるもの、一にして分ちて内國商業と外國商業即ち貿易との二種となす、内國商業は國內各處の間に行はるる商業にして漸を以て發達するもの如し、是れ一は交通の便の開くるに依ると雖、亦商品の増加改良と營業者の進歩發達とは大に與りて力あるべし、然れども内國の商業に就きては適當なる統計表の存するなきを以て直接には概況だも記述するを得ざるべし、されば内國商業の情況は或は國內交通の發達に徴するか百貨集散の情態に鑑みるか或は外國商業の盛衰に就きて窺知せざるへからず、蓋し貿易と内國商業とは車の兩輪の如く唇齒相依るものなればなり

先づ十數年來、我が國の貿易は縱令、年に依りて多少の浮沈あるは免る能はざるも概ね良好の結果を與ふるものにして輸出入全計の増加すると輸出が輸入に超過するは誠に喜ぶに堪へたり殊に正貨の濫出

年次	輸	入	輸	出	輸	入	超過
明治二十七年		三四六七、九〇一四		二八三六、八九一九		六三一、〇〇九五	
同 二十六年		一二五九、〇五〇〇		一一二九、一二八二		一一九、九二一八	
同 二十五年		九九五、五四九九		二二〇五、三二五七		一三〇九、七六五八	
同 二十四年		一八八、一一四五		一四〇五、九〇四八		一一一七、七九〇三	
同 二十三年		一四一九、一〇五三		一四二一、二八六〇	×	一二七七、八一九三	

金銀貨輸入出略年比較表

年次	輸	入	輸	出	超過
同十七年	三三九八、四六四〇	三三二五、六四〇四	六六一四、一〇四四	一八二、八二三六	
同十六年	三八五一、六一〇〇	三三〇一、四五五〇	七〇五三、〇六五〇	六五〇、一五五〇	
同十五年	三九四九、九九三四	三三二八、四三三四	七二三四、四二六八	六六五、五六〇〇	
同十四年	三三〇〇、三六二四	三三三〇、八六八五	六八三一、二三〇九	一一三〇、五〇六一	
同十三年	二九三七、三四〇〇	四一一〇、一九三七	七〇四七、五三三七	一一七二、八五三七	
總計	八、七九九三、九六一三	八、五九九三、〇七四六	一七、三九八七、〇三五九	二〇〇〇、八八六七	

を見ざるに至りたるは最、慶賀すべきものとす、是れ次表の指示する所なり

輸出入全計累年比較表

*ハ輸入超過
×ハ輸出超過

年次	輸	入	輸	出	全計	超過
明治二十七年	一、一三三〇、八九九七	一、二一六七、七二六三	二、三四九八、六二六〇	八三六、八二六六		
同 二十六年	九〇四一、九九〇九	八九三五、五三三八	一、七九七七、五二四七	一〇六、四五七一		
同 二十五年	九一一七、八五五三	七五九五、二三四四	一、六七二一、〇八九七	一五二二、六二〇九		
同 二十四年	七九五九、五五三三	六三八五、一三三二	一、四三四四、六六六五	一五七四、四四〇二		
同 二十三年	五六六八、七〇三四	八一八三、六五七五	一、三八五二、三六〇九	二五二四、九五四一		
同 二十二年	七〇一七、九八九三	六六二三、六〇一九	一、三六四一、五九一二	三九四、三八七四		
同 二十一年	六五七六、七一〇一	六五五四、九二〇〇	一、三一一一、六三〇一	二一、七九〇一		
同 二十年	五二四〇、七六八一	五一六九、九七七〇	一、〇四一〇、七四五二	七〇、九二一〇		
同 十九年	四八八七、〇五二二	三七六三、七一三八	八六五〇、七六六〇	一一二三、三三八四		
同 十八年	三七一四、六六九二	三二七一、〇〇五七	六九八五、六七四九	四四三、六六三五		

を査察すれば亦概嘆せざるを得ざるものあり、夫れ各種の物品中、工藝より得たる製作物を輸出するは、之を農業若しくは鑛業より得たる原料的産物を輸出するに比すれば、邦家の利益たることは前に述べたる理由に依りて明なり、然るに今我が國の重要なる輸出品を見るに、其の第一位を占むるものを生絲とし之に次ぐを茶、燃料、穀類等とす、此等の輸出品は皆、充分に製作の勞を加へざる原料若しくは食料に供する産物なり、尤も工藝的産物に屬するものにして、織物の如きは近來其の歩武を進めたりと雖、大體に就きて之を觀察すれば、我が國の輸出品は工藝的製作物に少くして原料的物産の過多なること敢て疑を容れず

食料

原料

工藝

- 輸入品 二割三分二厘 三割一分七厘 四割五分一厘
- 輸出品 一割九分七厘 六割四分二厘 一割六分一厘

前記の表は明治二十五年の輸出輸入に係る各品に就きて食料原料工
藝の三種の百分比例なり

又同じく輸出する品種の内にも日常必須のものゝ奢侈に屬するもの
と何れが利ありと云ふに、日常の必需品を輸出するを遙に利益あり
とす、何となれば必須品は其の製作の容易にして普通の職工にて辨ず
るのみならず、之を需用するもの多く従て其の販路は廣大なるべし、奢
侈品は之を製作するに特殊の技倆を有するものを要するのみならず、
之を欠くも日常の生計に不自由寡きが故に若し一朝國家多事なる場
合等に遭遇すれば之を購求するものも従て減少するなるべし、然るに
今我が國の輸出品は生絲絹布茶等の如き寧ろ奢侈品に屬するもの其
の主位を占め、之に反して輸入品は工藝製作に屬するもの多きのみな
らず、綿布綿絲、毛布砂糖等の日常必須の品最、多しとす、殊に鐵機械船

艦兵器等の如き、當今の世に欠くべからざる物品を他國に仰ぐは甚
遺憾なりとせざるを得ず、要するに我が國の貿易が年々隆盛に趣くは
實に喜ぶべしと雖も、退きて輸出品の種類を檢すれば、原料的產物若し
くは奢侈的物品は其の主要なるものにして國家の不利甚しきが故に
須らく此等に換ふるに製作物の日常必須の品を以てするの境遇に至
らんと、吾人の希望に堪へざる處なり、今左に輸出輸入の各に就きて重
要なる品種の價格百萬圓以上のものを列舉せん

輸 出 物 品		輸 入 物 品	
品 物	明治二十六年	品 物	明治二十六年
生絲類	三〇九六、六七四三 <small>円</small>	綿類	一六一五、一五七〇 <small>円</small>
絹布類	八四二、九一一六	砂糖類	一一五六、四四一九
茶類	七七〇、二〇八八	綿絲類	七四〇、〇三六九
			同 二十五年
			同 二十五年
			同 二十五年

穀物類	五二二、三九〇六	四三六、五七四七	穀物、粉類	七〇三、七三八九	五一〇、九九五四
燃料類	四八九、六八六〇	四六五、二二二四	毛絲毛織類	五九七、四一〇九	五三一、八九三七
日用品類 (摺附木)	三五三、七九七四	二二〇、二〇四一	綿布類	五六八、四〇五五	四六七、八三九八
金銀器類	二九六、四六〇九	二七五、八二六四	金銀類	五三九、一五二二	三七四、〇二一九
魚介類	二七五、一七一九	二二〇、一三四六	油類	四六八、六八五二	三七三、〇九七八
金屬類	二二九、八二六七	二七八、〇七八二	機械類	三九七、七七一〇	二二五、八三六三
絹物類	二二三、六五一八	一三四、八六六五	製革類	二八一、八五〇三	二〇八、九一八〇
陶磁玻璃類	一八五、八二七三	一六七、八五三〇	交織類	一九二、四〇六六	一三七、八七三〇
染料類	一八三、〇八四二	一七三、六四六五	染料類	一七〇、五七〇二	一四八、六四五九
海草類	一六三、八七〇二	一五九、二八六九	車輛船類	一五三、二五一七	七三、九六三六
綿、綿布類	一六三、六三三二	七八、一七〇〇	皮革類	一三八、五一三五	一四三、六三一七
粧飾品類	一一三、八七七八	七八、一七七一	金屬器類	一二四、九二五八	一一〇、八五九二

次に我が國の貨物を購入する諸國並に我が國に貨物を賣込む諸國に就きて元價の百萬以上に達するものを擧ぐれば左の如し

輸出入物品元價國列		輸出之部		輸入之部	
國名	明治二十六年	同二十五年	國名	明治二十六年	同二十五年
アメリカ合衆國	二七七三、九四五八	三八六七、四九七一	イギリス	二七九二、九六二八	二〇七八、九三三二
フランス	一九五三、一九七五	一八〇九、三六九四	清國	一七〇九、五九七五	一二五〇、九四一〇
香港	一五六八、八八七五	一三二八、八五四〇	イギリス領	八六七、九〇二九	七六六、二〇〇四
清國	七七一、四四二〇	六三五、八八五九	香港	八二六、八〇七一	六九八、五七二三
イギリス	四九九、五九七五	三九二、一七五三	ドイツ	七三一、八一三四	六三七、五〇四八
イギリス領	二四七、一〇七九	一四二、二二八九	アメリカ	六〇九、〇四〇八	五九八、八〇五四
東印度	一七二、〇五五九	一〇八、八四〇七	合衆國	三三〇、五二七七	二六二、〇五〇〇
イギリス領	一六三、一九〇八	一二五、四三三〇	フランス	一九九、九四三九	三〇四、六三四〇
イタリ	一三八、〇〇四〇	九四、〇七八三	朝鮮	一八七、一一一四	八三、五三九五
ドイツ	一三〇、一二四三	一四一、〇六九九	ロシア		

是に由て之を觀れば貿易上、アメリカ合衆國、フランスは我が國の好

得意にして香港、イギリス領アメリカは之に次ぐ又イギリス清國は賣方に於て首位を占め之に次ぐものをイギリス領東印度、ドイツとす。又甲國より輸入したる物品を乙國に向けて再び輸出することあり之を再輸出と云ふ、本邦に於ては再輸出は未だ盛ならず、其の額は七八十萬圓に過ぎず。

次に本邦の貿易が如何なる商人の手に依りて實行せらるかを觀察すれば實に慨嘆に堪へざるものあるべし、蓋し輸出輸入ともに多くは外國商人の專占する所にして内國商の勢力極めて微弱なりとす。左に掲ぐるものは輸出入全計に就きて内國商並に外國商の百分比例なり。

年次	明治二十六年	同二十五年	同二十四年	同二十三年	同二十二年
内國商	一七六九	一五九二	一六五五	一九〇五	一二五七

外國商	八三三二	八四〇八	八三四五	八〇九五	八七四三
-----	------	------	------	------	------

我が國は純然たる島嶼國なれば貿易上、各種の物品を輸送するには船舶の力を借らざるを得ず、されば百貨を運輸するの權は全然我が國の掌握する所なるか將た幾分を外國船に讓らざるを得ざるかを觀るも敢て無用ならざるべし、然れども貿易の全計一億八千萬圓の内、日章國旗の下に出入せしものは僅に一千四百餘萬圓に過ぎざるの事實を知らば誰か痛嘆措く能はざるの感を同じうせざる、茲に輸出輸入に就きて百萬圓以上の貨物の輸送を司る商旗を掲げたり。

旗章	船種		輸		入	
	汽	帆	出	輸	入	輸
イギリス	四四六八、二〇六一	一〇六、八七三七	同二十五年	明治二十六年	同二十五年	同二十五年
	四八七八七、四七三	一六六、二九三二	同二十五年	明治二十六年	同二十五年	同二十五年
	五四〇三、一八一	九七、九五三五	同二十五年	明治二十六年	同二十五年	同二十五年
	四一九三、二五九五	一〇二、五〇三九	同二十五年	明治二十六年	同二十五年	同二十五年

日 本	アメリ 合衆國	ド イ ツ	フ ラ ン ス
汽 帆	汽 帆	汽 帆	汽 帆
六五九、四二七八 二六、〇七四四	七〇九、四二三五 一六四、八六一〇	九九六、二一五〇 五一、九四六七	一四二七、九四二二 四、三〇一六
六四九、二三四四 三二、二五二三	七七四、六九三二 一三〇、〇八七八	七八八、一一八〇 三、九〇〇一	一三九七、九五〇一 三二一
七〇五、四一二九 五一、七九九三	一一〇、七三八四 二〇、六九九四	一三二七、八五一二 二八、〇七七二	七二〇、二六四二 四、五四六八
八一三、八二四九 七一、三六七三	八六、一一三三 八一、二二五一	九四八、四四三五 七、六四六二	六九九、九四二八 四、二六三五

商品の運輸に従事する船舶の出入碇繋する處を商港と云ひ而して商港に二種あり一は普通商港にして一般の商船の出入する處なり、一は貿易港にして通商貿易に従事するものとす又貿易港を三種に別ちて普通貿易港、特別貿易港、特別輸出港とす、其の普通貿易港は通商條約

を締結したる各國に就きて、普通一般の貿易に従事するものを云ひ、其の特別貿易港は一國若しくは一港を限りて普通の貿易に従事するものを云ひ、其の特別輸出港は特別の物産に限り帝國臣民の輸出するを得る所とす

本邦に於ける普通貿易港は横濱、神戸、大坂、長崎、函館、新潟の六港となす、特別貿易港は宮津、朝鮮、浦鹽、斯德に限り、下の關、博多、嚴原、鹿見、佐須奈（朝鮮に限り）の六港となす、特別輸出港は下の關、博多、口の津、唐津、門司、三角、伏木、小樽、四日市、釧路、米、麥、麥粉、石炭、硫黄の五品に限り、の十港となす、前記の貿易港二十ヶ處の内、横濱港は首位を占め、神戸港之に次ぐ、新潟の如き六大港の一に位せるも、其の貿易高は僅々四五萬圓に過ぎず、されば貿易上に於ては新潟は實に虚名を博せるに止まれりと云ふの外なかるべし、之に反し、下の關、口の津、門司の如きは其の貿易高百五十

萬圓以上に達せり、茲に明治二十六年の統計表に依り輸出入全計を標準として各港の席次を定むれば左表を得べし

港名	輸出	輸入	輸出入全計
横濱	五五二〇、九五八六	三六三〇、五〇六九	九一五一、四六五五
神戸	二四九六、八九七四	四二二九、四二七七	六六二六、三二五一
大阪	一一二、二八九二	六五〇、四九九七	七七一、七八八九
長崎	三三二、六〇六二	三五二、四一九九	六七五、〇二六一
下関	一〇八、二六〇八	五一、九五八一	一六〇、二一八九
門司	一五六、四四七五		一五六、四四七五
日津	一五五、一六三〇		一五五、一六三〇
國領	六三、九六二七	二、四三三二	六六、三九九九
唐津	一一、六三一九		一一、六三一九
小樽	六、〇四八二		六、〇四八二
盛岡	一、三八六三	二、九二五八	四、三一二一
新潟	一、五二五四	二、四五五三	三、九八〇七

其十 交通業

交通業とは旅客の往復、信書の發着、百貨の運搬等の目的を達せしむる業を云ふ、本業に於けるも他業と均しく其の目的を達せしむるに要

港名	輸出	輸入	輸出入全計
鹿角見	一、〇二八五	一、〇八五二	二、一一三七
三多角	一、八〇四九		一、八〇四九
博多	三八〇三	一、三〇一七	一、六八二〇
伏木	一、三二〇三		一、三二〇三
佐奈木	六七七九	五六〇五	一二、三八四
宮津	〇	一、四四二	一、四四〇
四日市	〇		〇
銅路	八、九七二、二八六四	八、八二五、七一七一	一、七七九七、〇〇三五

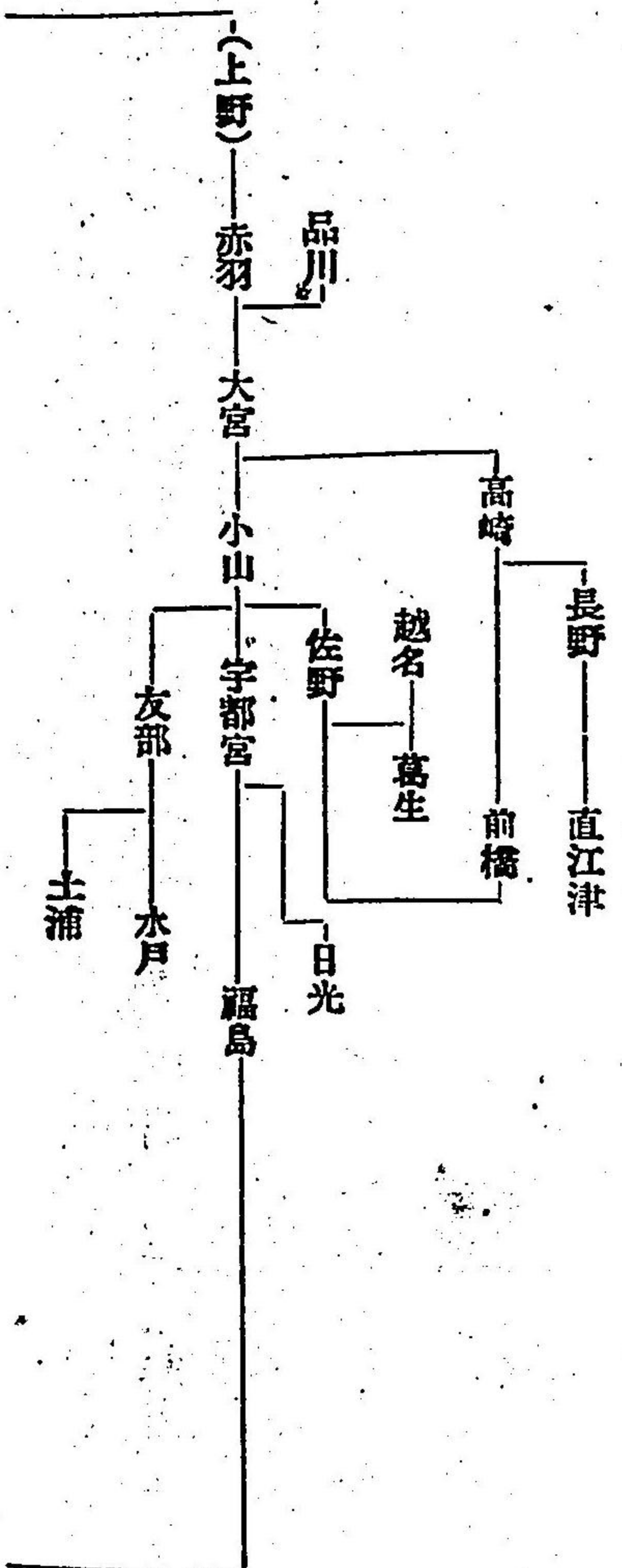
する機關なかるべからず、其の機關の主なるものを通路とす。通路の中には、陸に據るものと水に據るものと、の別あり、是れ陸路と水路との別ある所以なり。又陸路の中には普通の道路と特別の道路(例へば鐵道の如きもの)とあり而して水路の中には航河あり、航湖あり、或は運河と稱し、人工を以て開掘したるものあり、就中普通にして利用の最も廣きものを海路とす。次に此等の通路を利用し、運搬往復をなすには通路の外尙ほ他に相應の機關なかるべからず、即ち陸路には牛馬、牛車、馬車、橇若しくは汽車を要し、水路には帆船、汽船を要す。其の他、音信を通ずるには郵便に依り、若し急を要する報知あらば電信に據る、又市街内の如き甚だ遠からざる距離に於ては電話を設くるものとす。總べて交通の便に供する此等の機關が充分發達せる國は即ち最も開明に赴ける國たるを證すべし。されば我が國の交通の情況を記載して其の如何に發達せ

るかを知らしめんとす

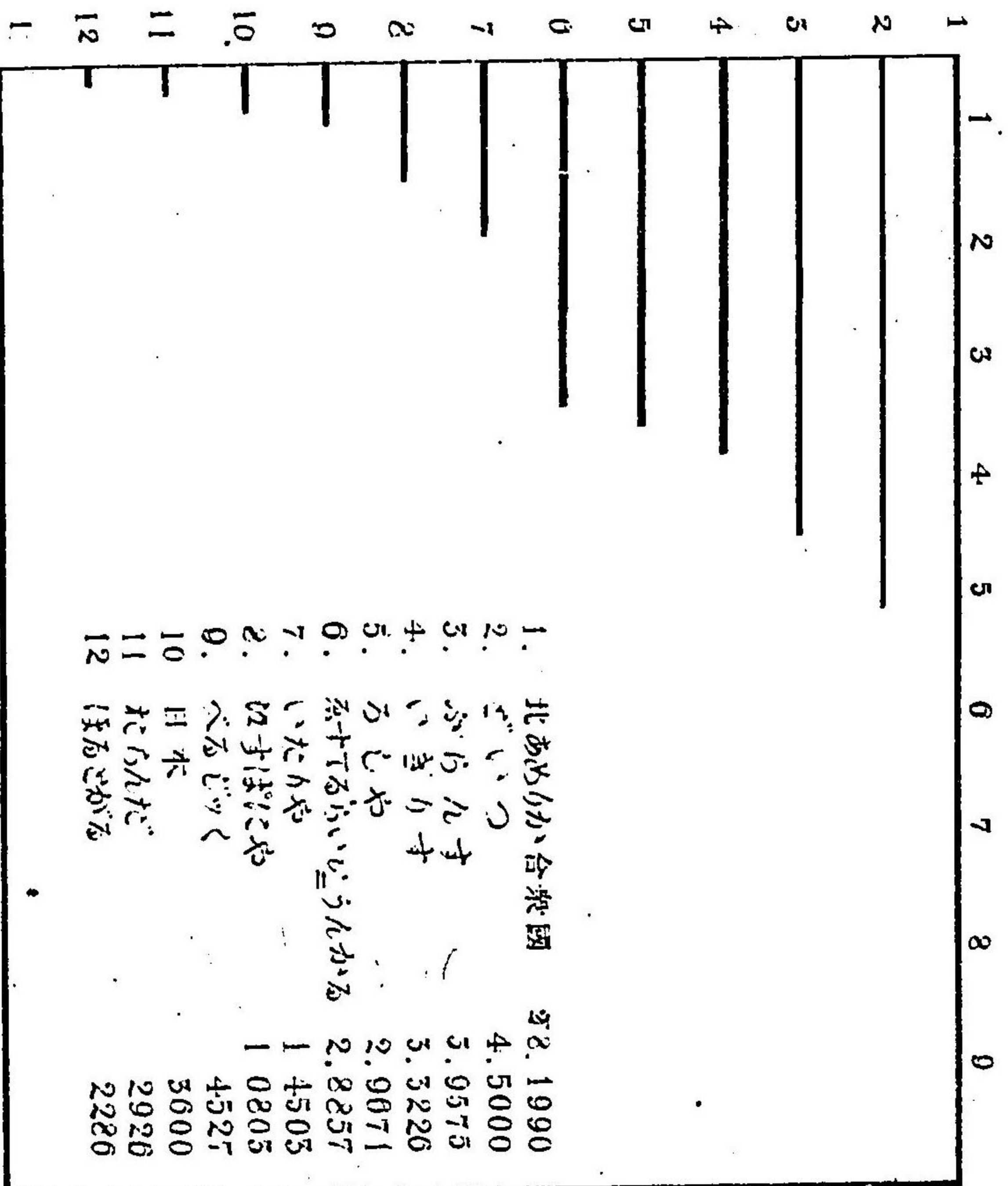
道路 凡そ完全なる道路と稱すべきものは、其の幅一定し、傾斜あるも緩にして險惡ならず、車馬の通行に困難を覺へざるものたらざるべからず。然るに我が國にては此の如き完全なる道路の發達未だ充分ならず而して本邦にては要用の程度に準據して道路の設備、經濟等を異にするを以て國道、縣道、里道に別てり。國道は重要な都會の間を連絡するものにて、其の延長は現に二千餘里に達すれども、道幅は一定なるに非ず、其の傾斜も適度ならざることあり、從て車馬の通行に不便を感ずること尠からず、一等道路にして既に然り、縣道に至りては縱令、其の延長は七千里に達するも、整備の點に於て缺くる所あるを免れず

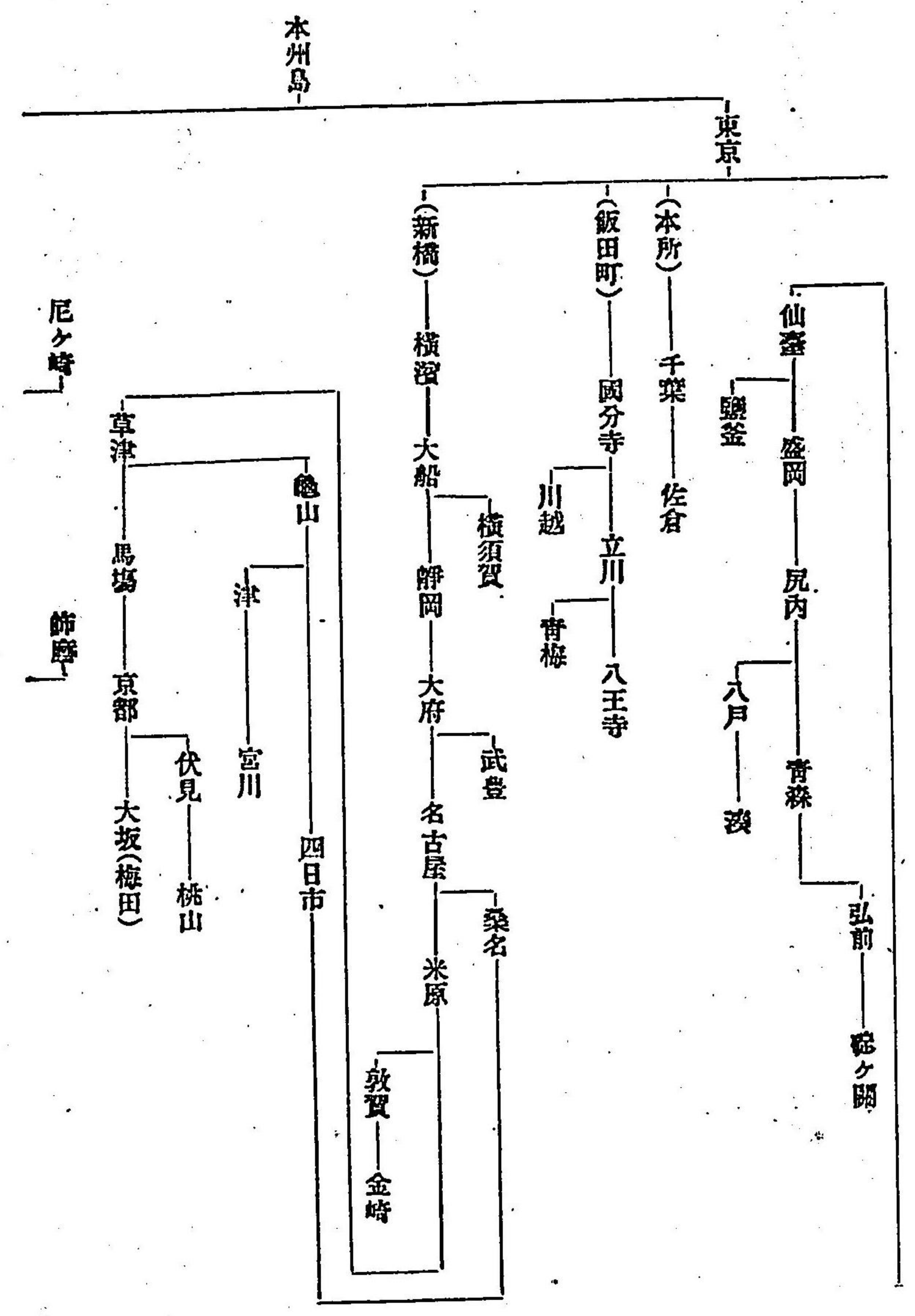
鐵道 我が國に於ける鐵道の創設は二十餘年前に過ぎずと雖、其の發達屢々乎として進み、現今既成線の延長は既に二千餘哩に達し、其

の敷設計畫に係るものは二千哩餘に及び又既成線の内にて官設に係るものは凡そ五百六十哩にして私設に係るものは一千五百哩に近し而して鐵道敷設法に據り第一期線と決定せられたるものは凡そ一千五百五十哩なり且又鐵道收入の合計は一千二百五十萬圓にして其の内、乗客賃は七百三十萬圓なるが貨物賃は三百七十二萬圓に過ぎず今茲に略表を掲げて既成線路の梗概を指示せん



各國鐵道比較圖





に過ぎず、故に我が國の水路は海路を除くの外、未だ著しき發達を見ず、且又海路に於けるも航路の區域より觀察すれば轉々感慨に堪へざるものあり、航路として見るときは洋海の存するあるのみにて之を航するの船舶なくんば何かあらん、而して其の航路に於けるも沿岸航路と遠洋航路との二種あるを忘るべからず、されば我が國の航海業を見るに沿岸航路は頗る開け國內樞要の諸港を連絡して船舶は定期に往來するあるも、遠洋航路に至りては其の發達未だ充分ならず、現に我が國に産する百貨を海外諸國に輸送するに日章旗を以てするものは僅に上海、香港と南洋の一小部分のみなり、近頃インドのボンベイ港と我が貿易港との間に新航路を開きし如きは實に一快事とするに足るものあり、然れども輸出入の全計一億八千萬圓に就きて其の我が船舶を以てするものは未だ十分の一にも達せずと云ふ、抑、我が國は東洋唯一

の開明國にして四圍に海洋を繞らす所の島嶼より成るものなれば、少なくとも西洋に於ける英國に匹敵すべき勢力を有すべきは理の當然なり、而して現に英國は一萬四千隻と百六十萬噸との商船を以て世界の洋海を縦横に航行するの時に當り、我が國は僅に一千五百隻と二十一萬噸との船舶外に一七二三八隻と二八六五七隻の日本形商船ありなりにて近海に齟齬して遠洋に雄飛する能はざるは誠に嘆息に堪へざる所なり

左に掲ぐる表は明治二十七年末の調査に係る我が國商船の統計の一斑なるが、西洋形商船とは歐米諸國に行はるるものと同様の構造にて、大なるものは堅岩にして能く遠洋を航するに足るものなり、而して日本形商船とは從來の船舶を云ふものにて其の價廉なるも構造脆弱にして僅に沿岸の航路を往來するを得るのみ、

西洋形商船は近來漸次に其の數を増加す、然れども此の増加は主と

して汽船にありて帆船は反りて減却するもの、如し

船種	百噸未満			百噸乃至百五噸			五百噸以上			合計		
	船數	噸數	馬力	船數	噸數	馬力	船數	噸數	馬力	船數	噸數	馬力
蒸氣船	五〇八	一七二二六七五五五	一四六	三三九六三三三三八	九一	一七三三三五	三二一八四九	七四五	一六九四一四	三七一五二		
風帆船	六四七	二二三三〇九	—	七二	一七三三九七	—	三〇〇五	—	七三三	四三三三	—	—
總計	一一五五	四〇三三五七九六五	—	二一七	五八三三六〇七三三八	—	九五	一三〇三三〇	三二一八四九	一四六七	二二〇二五	三七一五二

而して此の總噸數二十一萬二千九百二十五を府縣別になして其の主なるものを擧ぐれば

汽船 東京(六、五二五三) 大坂(二、四一九一) 兵庫(二、三二七九) 北海道(七〇八五) 長崎(六六六一)

帆船 大坂(九四三三) 東京(七七五五) 福岡(六〇二一) 兵庫(五二八八) 北海道(四五四一)

日本形商船は漸次、其の數を減少す、殊に五百石以上のものに然りとなす

船數 一七三三八 兵庫(一七九八) 廣島(一四七六) 山口(一一五七) 愛媛(八七九) 愛知(八六六)

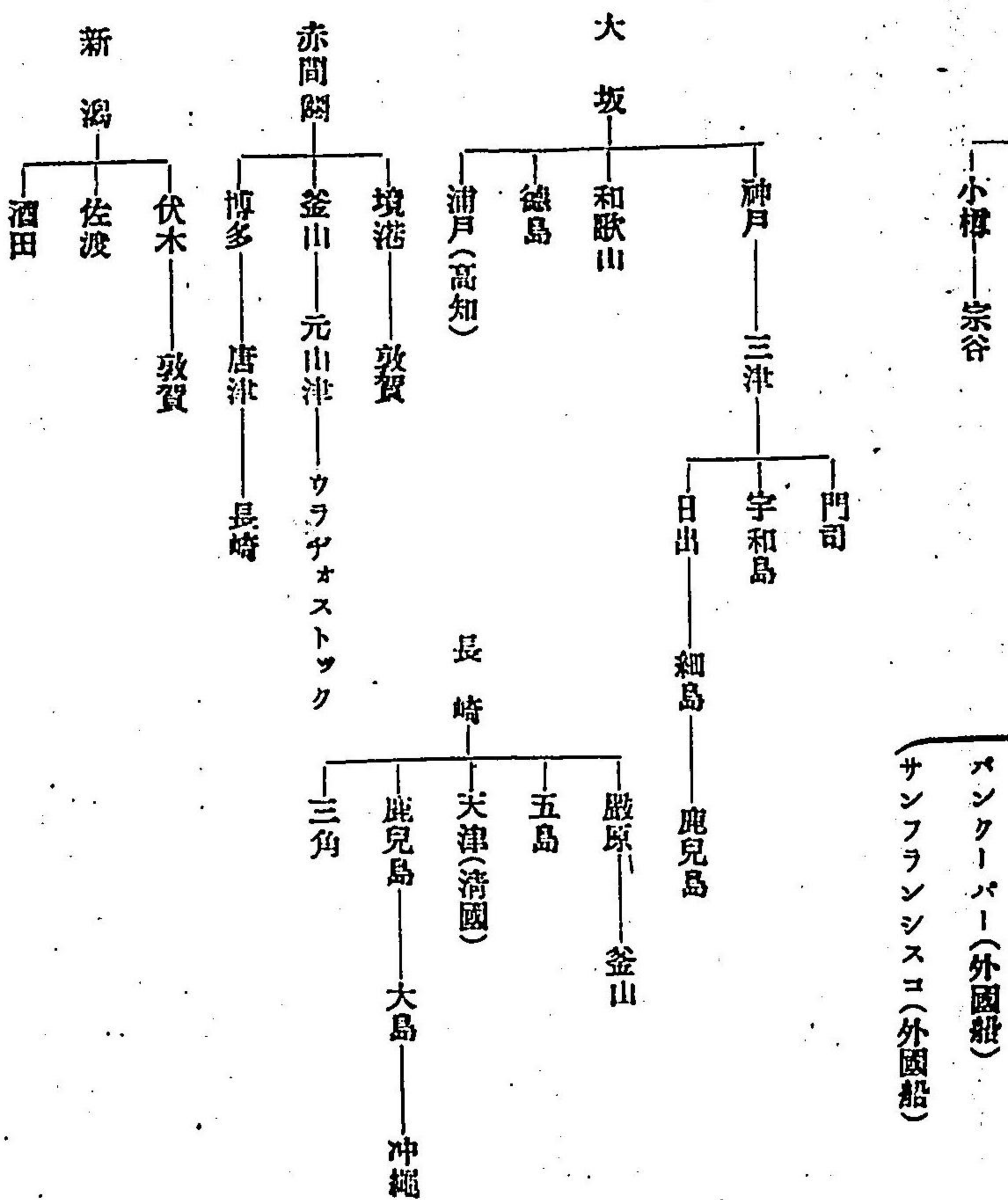
石數 二八六五七五九 廣島(二五) 兵庫(二三) 長崎(一九) 愛媛(一七) 大坂(一六)

船舶乗込海員中にて西洋形に屬するものは八千二百三十四人ありて其の内の八十五人は外國人なり而して日本形に屬するものは其の船員を詳にせず

因に記す我が國の二大商船會社は、日本郵船會社及び大坂商船會社とす而して其の實力を指示すれば

社名	船數	噸數	馬力
日本郵船會社	七二	五、四八七二	八八三〇
大坂商船會社	五七	一、一五九八	二、三三三

且又兩社の收入を指示すれば



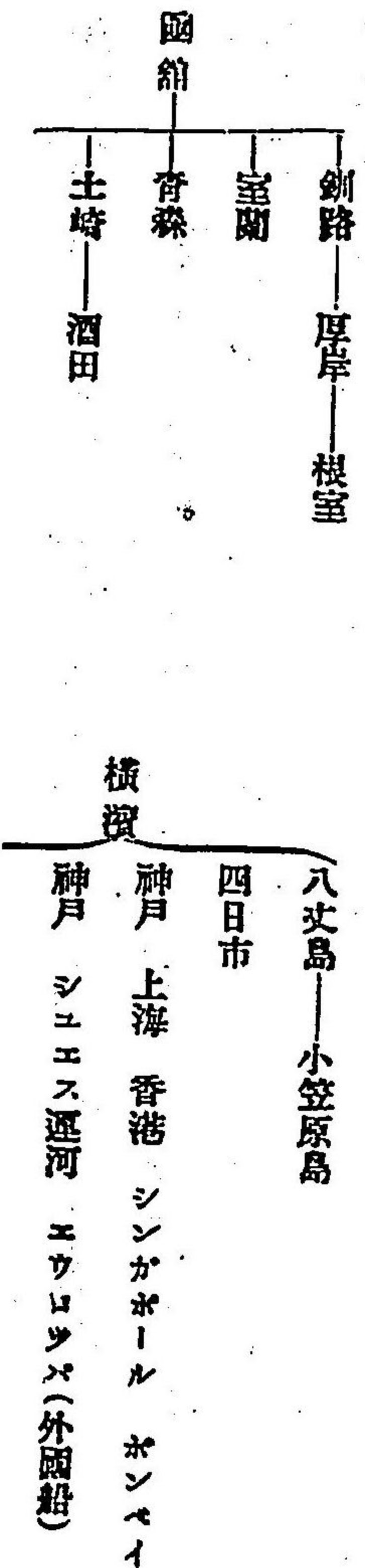
マシクーパー(外國船)
サンフランシスコ(外國船)

社名	船客	荷物	合計
日本郵船會社	六八、〇八六五	三三九、三四七三	四三七、四三三八
大坂商船會社	四六、六八一	五六、五四四七	一〇三、二二五八

而して、沿岸航路の主要なるものを記すれば左の如し

横濱—神戸—赤間關—長崎 (七一七哩)
横濱—荻濱—函館—小樽 (七五四哩)

右の二航路は主幹航路にして其の他、各要港と各地との間に存する航路は夥多にして實に枚舉に遑あらず、されば次に記するものの如きは摘要に過ぎずと知るべし



郵便 郵便は新事業中最、我が國人に歡待せられたるものなり、故に創業以來、長足の進歩をなし日に月に盛大に赴くは誠に欣賀せざるを得ず、他日鐵路の發達充分なるに於ては速度に一層の増進を觀るに至るべし、今茲に郵便事業の發達の概況を摘記せんに、線路に就きて實里數は普通道路一萬一千一百六十七里にして鐵路二千五哩なるも延里數は普通道路一千二百三十六萬里にして鐵路四百四十三萬哩餘に達せり而して郵便局の數は三千七百餘に及べり、又郵便物の總數は各種合せて三億九千二百餘萬なり即ち一人平均は九、二七なり、次に郵便物件の總數の一千萬以上に達する府縣を擧ぐれば左の如し

東京(一〇九) 大坂(三九) 兵庫(二三) 京都(二二) 神奈川(二一) 愛知(一一)

電信 電信事業は郵便事業の如き盛況を呈せざるも亦月に歲に發達し明治二十八年三月末の調査に依れば其の架設線路の中、陸地に於

けるものは三千八百五十里にして之を延長すれば一萬一千五百餘里に及ぶべし而して海底若しくは河底にあるものは二百九十哩にして心線延長は三百五十七哩餘に達すべし又電報を扱ふ局の數は七百六十以上に達せり

電話は其の創設以來、日尙淺きも東京、大坂、横濱、神戸等の都會の地には大に流行するもの、如し而して線路の長さは凡そ百七十六里にして線條の長さは一千八百九十四里に達せり

而して明治二十六年に於ける郵便、電信、電話等の収入は凡そ六百四十九萬圓にして支出は凡そ五百八萬圓なりと云ふ

● 處 誌

本州島

其一 中部

東京府

武藏 東京市は我が帝國の首府にして全國第一の都會なれば其の規模甚^々宏大なり、南北は三里十町、東西は二里十町ありて、關東平野の南部に位し、東京灣に瀕し、隅田川に跨れり、人口は百三十萬餘ありて、實に世界の大都の中にて第六位を占む、地勢概^々平坦なれども西北には白金、目白、本郷等、一帯の臺地あり、市内を十五區に分つ、其の十三區は麴町、神田、日本橋、芝、麻布、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、下谷、淺草にして、隅田川の右岸にあり而して本所、深川の兩區は其の左岸にあり、市坊は其の數一千三百三十にして、大道、小路は縱横に通せり、陸路は東海道、甲州街道、中仙道、奥羽街道、水戸街道等の諸道に連なり、海路は總房、相等の諸州に

達せり、加ふるに新橋、上野、飯田町、本所の四ヶ所に停車場を設けて、汽車の發着に備へ、運河、堀割を開きて、貨船の往復を便にす、又隅田川には吾妻橋、厩屋橋、兩國橋、新大橋、永代橋の五大橋を架するあり、其の他、馬車鐵道あり、河上汽船あり、電信あり、電話ありて、交通上、至便の地なりとす、市の中央を皇居となす、繞らすに濠渠を以てし、城郭甚^々壯嚴なり、而して諸省を始めとし、兵營、學校、博物館等の如き官衙公署は宮城の周りに散在し、公侯の邸第は其の構造宏大にして見るに足るもの多く、市街は商店買肆櫛比して數十里に亘り、車聲驛々として、行客織るが如し、就中銀座通、日本橋通、小川町通等は最^々盛昌にして、常に熱鬧を極めり、市内には大社、巨刹を見ざるも、靖國神社、日技神社、神田神社、増上寺、淺草寺は有名なり、又上野、淺草、芝、深川等に公園を設けて、市民の娛樂に供せり、抑本市の斯くの如く繁盛なるは、遠く太田道灌の築城に基づき、徳川氏の

幕府を江戸に開きしより以來、三百の大小名を始とし、旗下八萬騎は此の地に集合せしが、三百年の星霜を泰平の間に經過して、維新革政の後には、河、皇居、中央政府の所在地として、政事の中心と成り、又其の他、學術、教育、等種々の業務の中心となれり、従て多數の士民群集して、諸國の貨物の輻輳を促がし、遂に消耗の一大中心となるに至れり、然れども近來は單に消耗を事とするに止まらず、製造工藝等も亦漸次隆盛に趣きて、燐寸、セメント、綿絲、綿布、其の他、足袋、衣服、唐紙、綿繪、團扇、海苔、菓子等の如き内外に輸出する雜貨を産出せり、特に書籍の出板、學術機械の製作に至りては海内無比なりとす

此の地の産にして世に知られたる人を擧ぐれば、儒者に新井白石、荻生徂徠あり、文學家に村田春海、加藤千陰あり、經世家に林子平あり、探檢家に近藤守重あり、醫士に宇田川玄中あり、數學者に關自由亭あり、戯作者に瀧澤馬琴あり、畫家に谷文晁、葛飾北齋あり

品川町(一、五〇〇〇)は、鑛地なり、玻璃器、煉瓦等の製造所を有す、南千住町(二、一〇〇〇)は、繁華の地なり、陸軍製絨所あり、又小塚原刑場の跡あり、千住町(一、五〇〇〇)は、交通上の要區にして、繁華の地なり、王子村は瀧の川に瀕す、近來其の流水を利用して、沿岸に壯大なる製造所數々所を建設せしが、日に月に盛大に趣くの傾向あり、本村は元々一小名勝の地として、僅に名を知らるゝに過ぎざりしが、一度製造工藝の地となりしより、以來、人口頗る増加し、昔日の寒村は變じて、將に一都會たらんとす、王子町(二、四〇〇〇)は、甲州街道に當る一小都會にして、一樂織、風通織等を産出するを以て名を知らる、織物業上、一の中心とするに足るものあり、鐵道は東京に通じ、運輸の便ありて、商業も亦盛なり

矢口村に新田神社あり、新田義興の靈を祀る、府中驛は古の國府の地にして、商業も稍盛なり、青梅町は、綿、綿布を産す、

豆南諸島 大島は人口凡そ五千を有し、居民は耕織漁樵に従事せり新島、岡田等の五ヶ村あり、又島の南に一港あり波浮と云ふ、新島は人口凡そ三千を有せり、居民は漁樵を以て業とす、本村、若郷の二村あり、而して利島、式根島は本島に属せり、神津島の西南に一の聚落あり、人口は一千五百に近くして農漁に従事せり、三宅島は古の鬼が島なり、人口は凡そ三百にして農漁に従事せり、小島の宇津木村は人口凡そ四百を有せり、此の地に爲朝の祠あり、八丈島は人口凡そ一萬を有せり、大賀、三根等の五村より成りて居民は概ね質樸にして言語風俗共に内地に異なる所多し、男は漁樵農事を専らとし女は蚕蠶機織を力む

小笠原群島 父島は人口凡そ九百を有せり、大村は二見港の西北にあり島廳の所在地にして警察署、病院、小學校、太神宮あり、久烟日々に増殖し稍繁華の地なり、扇浦は文久年間幕府が島役所を設けし處なり、奥村は二見港の東北の海岸にあり、漂流死人冥福の碑并に島民の墓地あり、清瀬谷は嘉永年間米國水師提督ペリー氏の石炭貯蔵場を設けし處なりとす、母島は人口凡そ三百を有せり、沖港に類せる地に一大村落あり名づけて沖村と云ふ、島廳の出張所あり

り、北村は一の小港を有す北港と稱す、漁舟の碇繋に便なり、椰子渡の近傍に唐人屋敷と稱する處あり往昔支那人居住の舊趾たり

神奈川縣

武藏 横濱市は我が國開港場中の第一に位せるものにして東西二十三町南北一里五町あり、人口は十六萬餘にして帝國第五の大都會なり、神奈川縣廳、地方裁判所、税關等あり、此の地は今を去る四十年前は徹々たる一寒村に過ぎざりしが、海外各國と交易を開くに方りて互市場となりしより以來、丘を掘り海を埋めて遂に現時の都會を見るに至れり、港内は帆檣常に林立し、市街は整然として商賈は擔を列ね、街衢は到る處般販にして車馬の往來織るが如し、殊に居留地には魏々たる洋館相連りて一種の奇觀は人をして外國に居るが如き想を抱かしむ、又市中に鐵管を通じて多摩川の水を疏し以て住民の飲料に供せり、且近來

は盛に築港に従事し居るが故に不日にして更に安全便利の良港となるに至るべし

本市に接して神奈川町(一、六〇〇〇)あり稍、殷賑の地なりとす

相模 横須賀町(二、八〇〇〇)は第一海軍區を管するの任に當れる鎮守府の設あるを以て軍事上極めて重要な處とす、其の軍港は我が國の軍港中にて最、整備せるものにして艦艙の碇泊に適す、船渠あり製鋼所あり機械場ありて艦船の建造修繕に従事せり、其の他、海兵團あり病院あり學校ありて軍港の防務、軍兵の教養等を司れり、觀音崎并に猿島に砲臺あり共に東京灣の要塞たり、浦賀町(一、三〇〇〇)は横須賀を距る數里の處にあり、港は狭小にして大に用ふべきものにあらざれども、海底深く安全なるの點に於ては遙に横須賀港に勝れる所あるが如し、此の地は今を去る四十年前、米國の使節が始めて渡來せし處なるを以

て我が國の開港史に關し著名なりとす、小田原町(一、四〇〇〇)は海岸にありて漁業の盛なる處とす、市坊は整然として一小都會を爲す、此の地は元と大久保氏(十萬石)の采邑たりしが城趾は町の西北にあり、箱根の險を控へ名城の聞へありしものにて北條早雲の築きし所なりと云ふ、鎌倉は七千に足らぬ人口を以て一町區を爲すと雖、亦商估の軒を並べて一小都會を爲すに非ずして數々所の村落を合稱せしに過ぎず、抑、本地は源頼朝の頼府を開きしより以來延て北條足利の世に至るまで政權の中心たりし當時は隆盛なる大都會なりしは名蹟舊趾に依りて瞭然たり、昔時名將の邸趾は既に麥隴に變じ、頼朝屋敷、北條屋敷、公方屋敷の跡には草屋茅舍の寥々として散點するを見るのみ、嗚呼此の地を訪ふものにして親しく現時の荒廢を視、往昔の隆昌を追懷するあらば誰か世の變遷常なきを感じ轉、斷腹の思なきものあらんや、此の

地は昔時の建立に係る神社佛閣多く、其他古跡に富みて實に枚舉に遑
 あらず、就中、鶴岡八幡宮の如き朱殿石階、總べて舊時の觀を改めず、古色
 蕩々として自ら敬畏の念を生ず、而して建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨智寺、淨
 明寺を以て鎌倉の五山とす、其の他、長谷の觀音、淨泉寺の大佛、頼朝の墳
 墓、大塔宮の土窟等一見の價あるもの少なからず、且又此の地は海濱に
 沿ひ氣候快適、風景も亦閑雅にして眞に俗塵を洗脱するに足るを以て
 四時に來遊するもの絶へることなし、而して有名の刀工岡崎正宗は此
 の地の産なり

三崎町は一小池を有せり、奈野町は烟草を製す、大磯町は海水浴を以て名を
 知らる、柏山村は經世家二宮尊徳の生地なり、箱根山の近傍には温泉樹多く世
 に國嶽七湯と稱す、此の地は寄木細工を製す

埼玉縣

武藏 浦和町は中仙道の一驛に過ぎざりしが縣廳地方裁判所等を
 置きしより以來土地漸々繁盛に趣かんとす、然れども人口は未だ六千
 餘に過ぎず

熊谷町(二、三〇〇〇)は交通の便ありて市街繁華なり商業地とす、川越
 町(二、〇〇〇)は舊と松平氏の領土たりし所にして商業稍々盛なり
 所澤町は綿布を産す、飯能町は花色絹を製す、大宮町には秩父神社あり紡織
 の盛なる所とす、金屋村は文學家鳩保己一の生地なり、本庄町は蠶紙の賣買を
 以て著る、忍町には奥平氏の城趾あり、岩槻は舊と大岡氏の封土たりし所にし
 て蕨の産あり、川口村は鐵器を製造す

千葉縣

下總 千葉町(二、五〇〇〇)は縣下第一の都會にして縣廳あり地方裁
 判所あり繁華の土地なりとす

船橋町(二、三〇〇〇)は東京千葉間の要路に衝たれるを以て稍繁昌なり。佐倉町は人口一萬未滿なれども堀田氏の舊城市にして樞要の地なれば第二旅管司令部を置き歩兵一聯隊を駐屯せしむ。又此の地の近傍に於て木炭を産す稱して佐倉炭と云ふ。佐原町(二、二〇〇〇)は利根川沿岸の要津にして銚子街道の一驛たり百貨輻輳し商業頗る隆盛なり。又清酒を醸造す測量家伊能忠敬は此の地の産なり。銚子港(二、四〇〇〇)は東海岸の要港の一にして市街は繁華なり産物は醤油、乾魚、縮布を以て重なるものとす。

行徳町は製鹽を以て知られ、流山町は味淋を製造し、野田町は大に醤油を製す、成田町は新勝寺の不動尊を以て有名なり。

上総 勝浦町は蟹流に名あり、大多喜町には大河内氏の城趾あり、木更津は地方の要津たり、周南村に鹿野山神野寺あり、宮津村に砲臺あり、久留里町は黒田氏の舊城地なり、東金町は舊と酒井氏の城邑たりし處にて繁盛の地なり。

安房 箱山町は北條町に接して共に繁昌なる處とす、近傍に海水浴場の設あり、保田村は齒工菱川師宣の生處なり、白濱、磯、七浦等に秋刀魚の産あり、天津町も亦漁業の中心なり、湊村に誕生寺あり、日蓮上人の生地とす。

茨城縣

常陸 水戸市(二、八〇〇〇)は舊と徳川氏(三十五萬石)の城市たりしが今は縣廳、地方裁判所の所在地となれり、其の他、學校、銀行ありて實に地方の要區たり、又偕樂園、弘道館等の如き其の名義公、烈公、幽谷、東湖の名と共に高し、探見家間宮林藏は此の地の産なりと云ふ。

磯濱町(一、〇〇〇〇)は漁業地たり、近傍に大洗の海水浴場あり、湊町(二、二〇〇〇)は地方の要津にして市街も亦繁盛なり、太田町は商業地にして烟草、蒟蒻等の賣買に従事す、土浦町(二、〇〇〇〇)は土屋氏の舊城地にして醤油を醸造す、石岡町(二、一〇〇〇)は交通の衝に當るを以て商業盛

なり、又醬油、酒類を醸造す
松岡村は地理學者長久保赤水の生地なり、畷田村の瑞龍は水戸徳川の廟地
なり、鹿島町には官幣大社あり、笠間町には牧野氏の城趾あり、下館町は曝木綿
を産せり

下總 古河町(一、〇〇〇〇)は奥羽街道の衝に當る一小都會なり此の
地は徳川時代には土井氏に屬せしが歴史上有名なりとす

結城町は水野氏の治所なりしが城趾今尙に存す、袖を産す

栃木縣

下野 宇都宮町(三、四〇〇〇)舊に戸田氏の城市なりしが現今は縣廳地
方裁判所等の所在地なるのみならず、奥羽街道、日光街道等の要路に當
るが故に甚だ繁盛なる一都會なり、名士蒲生君平、畫家啓書記の生地なり
鹿沼町(一、〇〇〇〇)は大麻、木材等の賣買に従事し頗る繁華の土地な

り、足尾町(一、一〇〇〇)は本邦第一の銅山を有するを以て名を知らる、日
光町は社寺の壯觀なると風景の絶妙なるとを以て其の名海の内外に
轟けり、栃木町(一、一〇〇〇)は生絲、薪炭、木材、石材等を賣買せり、足利町(一、
六〇〇〇)は古來有名の土地にして舊に戸田氏の城市なりしが大に絹
布を製産するを以て織物業の一中心として算せらるるに至れり

小山町は人口五千に過ぎざれども鐵道の敷設ありしより以來百貨の輻輳、
旅客の來往甚だ盛なり極めて有望の土地なり、其の他、眞岡町に綿布の産あ
り、益子町は土器を製す、壬生町に鳥居氏の城趾あり、鹽原村に温泉あり、喜連川
町は高家喜連川氏の所領たりし處なり、佐野町の近傍に田原秀郷の城趾あり

群馬縣

上野 前橋市(三、二〇〇〇)は舊に松平氏の采地なりしが今は縣廳地
方裁判所等のあるありて商業繁榮にして頗る殷賑の土地なりとす

高崎町(三、六〇〇)は舊々大河内氏の城地なりしが交通上の要路に當る一都會なるを以て歩兵第十五聯隊の營所を設くるに至れり又生絲の産地なり桐生町(一、九〇〇)は大に絹布を製作す織物業の一中心たり

伊香保町は温泉を以て知られ、新町に紡績所あり、宮岡町に製絲所あり、安中町は板倉氏の采邑たりし處にして生絲を産す、沼田町は土岐氏の舊城下たりし處なり、館林町は秋元氏の舊采邑なり織物を産せり、伊勢町は太織を製す、細谷村は名士高山彦九郎の生地なり

長野縣

信濃 長野町(三、〇〇〇)は元來善光寺の存するを以て名を知られる土地なるが今は縣廳地方裁判所等の所在地として漸次盛大に趣き頗る有望の都會なりとす、上田町(二、〇〇〇)は舊々藤井氏の城市なり

りし處にして紬を産す又繁華の土地なり、飯田町(一、三〇〇)は名邑たり、儒者太宰春台の生地なり、松本町(二、七〇〇)は戸田氏の舊城邑なり、縣下第二の都會にして繁華なり、近傍本郷村に淺間の温泉あり

小諸町は牧野氏の舊城邑なりし處なり、上諏訪町は諏訪氏の舊城地にして製絲業の盛なる處なりとす、又温泉場あり、高遠町は織物を製す、福島町は木曾街道の要隘なり、松代町は眞田氏の舊城邑にして佐久間象山の生地たり、千曲川、犀川の二流が相合する處に川中島の古戰場あり、更科村に嫉捨山あり、親月の勝區たり、飯田町は舊々本多氏の城下たりし處なり

山梨縣

甲斐 甲府市(三、三〇〇)は縣廳地方裁判所等の所在地にして縣下唯一の都會なり、繭、生絲を始めとし、其の他、各種の貨物の集散地なり、城趾あり、舊々徳川時代には城代を置きて直轄せしめたる所なり、此の地

の近傍踰崎は武田信玄の生處なり

相川村に大泉寺あり武田氏の廟所とす勝沼村は葡萄を産す市川大門村は糊入紙を産す身延村に久遠寺あり歐澤村は商業地たり雨畑村は硯石を産す宮本村に御嶽山あり水晶を産す藍崎町に新府の城趾あり谷村は繁華の地とす大原村に猿橋あり其の他南北都留郡の各村に於て絹布を産す郡内織の名を以て世に知らる

静岡縣

駿河 静岡市(三、六〇〇〇)には縣廳地方裁判所等あり漆器竹器等の産あり實に東海道屈指の都會なり往昔徳川家康の居住せし處にして城趾今尙存せり淺間神社は駿機山にあり其の殿宇の結構甚だ賞すべし佛閣には寶蓋院あり由緒ある寺院とす市の近傍に臨濟寺あり同宗の總本山にして今川家の廟地たり山田長政は此の地の産なり

沼津町(一、一〇〇〇)に水野氏の舊城趾あり氣候温和にして風景に富む頗る遊樂の地に適す近傍の我入道牛臥等に海水浴場あり

田子の浦村に有名の勝區あり大宮町には淺間神社あり富士登山の入口となす興津町は清見灣に瀕し風景極めて佳なり清水町は一小良港を有す久能村に神社あり徳川家康を祭る焼津村は漁業地たり又海水浴場あり藤枝町の近傍に田中城の趾あり

伊豆 三島町は豆州第一の都會なるも人口は一萬に達せず三島神社は官幣大社なりとす狩野村は畫家狩野正信の生地なり北條村は北條氏立脚の地なり脩善寺村には有名の温泉場あり範頼頼家の墓あり熱海村は本邦唯一の噴出温泉を以て高名なり下田町は良港を有す我が國の開港史に關す藍山村は江川太郎左衛門の名と共に世人の知る所なり

遠江 濱松町(一、五〇〇〇)は舊と井上氏の采邑たりし所なり繁昌の地となす國學者加茂真淵の生地なり

掛川町に太田氏相良町に田沼氏大須賀村に西尾氏の舊城趾あり高天神山中に城趾あり三方原に古戰場あり井伊谷村に神社あり宗良親王を祭る

愛知縣

尾張 名古屋市は豊饒なる濃尾平野の中にありて帝國第四の大會たり人口は二十萬に達し町數は二百七十七あり街衢整然として商買は櫓を列べ車馬の往來織るが如く極めて殷賑なり又扇子團扇提燈漆器七寶燒其の他雜貨を産し商業工業共に盛況を呈せり愛知縣廳の所在地なるのみならず地方裁判所控訴院あり又第三師團司令部ありて歩兵一旅團砲兵一聯隊騎兵工兵輜重兵各一大隊は駐屯せり抑本市は徳川氏六十二萬石の封土たりし處にて城郭の壯麗なる天下無比と稱す殊に天主閣上の一雙の金鯨は實に稀有の貴品たり其の他巨刹としては東西兩本願寺別院あり神社には東照宮櫻天満宮ありて本

市の外觀を裝ひ各種の學校會社銀行等ありて本市の實力を表示するもの如し

熱田町(二、〇〇〇)は名古屋市に隣接する小都會にして魚市場あり伊勢路を往復する船舶の發着するあり頗る繁華の土地なりとす瀬戸町は陶磁器製作の中心たり陶工加藤景政は此の地に於て其の名を著せり一宮町(二、二〇〇)は古着市を以て名あり津島町(二、二〇〇)は交通上の要處にして商業旺盛なり

古澤村は織田信長の生處にして織豊村は豊臣秀吉加藤清正の生地なり小牧山は長湫の役に徳川家康の陣地たりし處なり四批把島町は青物市を以て名を知られ清洲町に城趾あり織田信長築城の地なり犬山町は舊と成瀬氏の所領たりし處にて陶器を産す半田町は酢酒等の醸造を以て知られ常滑町は陶器を製す有松村は木綿絞を産す又其の近傍に桶狭間の古戰場あり野間村には義朝の舊蹟あり

三河 岡崎町(一、七〇〇〇)は徳川家康の生地にして本多氏の所領たりし所なり、水陸遭運の利便ありて草綿の賣買頗る旺盛なりとす、豊橋町(一、五〇〇〇)は古く吉田と稱して大河内氏の舊城地たりしが今は歩兵第十八聯隊の營所となれり、豊川に瀕し縣下樞要の地にして商業も亦繁盛なり

刈谷町は舊く土井氏の城邑なりし處にて紡績所、煉瓦製造所あり、西尾町は大給氏の舊城地にして稍、繁華の土地なりとす、豊川村は稻荷神社を以て名を知らる、田原村は舊く三宅氏の采邑たりし處にして渡邊華山の生地なり

三重縣

伊勢 津市(三、〇〇〇〇)は一名を安濃津と云ふ舊く藤堂氏(三十二萬石)の城市なりしが現時は縣廳、地方裁判所等ありて、商業、工業共に盛なり、綿木綿、綆子、阿漕焼を産す

桑名町(一、九〇〇〇)は舊く松平氏(十一萬石)の治所にして伊勢海の要津たり、米穀の賣買甚々盛なり、四日市町(一、九〇〇〇)は伊勢海に臨み、米穀、其の他の貨物の集散地にして實に縣下第一の商區なり、工業としては紡績、製油、製紙等に從事し又萬古焼を産す、松坂町(一、三〇〇〇)は商業繁昌にして木綿織の産地なり、國學者本居宣長は此の地に生る、宇治町には皇太神宮ありて、山田町には豊受太神宮あり、宇治と山田とを合せて一町區となしたるが人口は二萬八千あり、此の地は神廟あるを以て諸國より參拜する人多く頗る般販なり

龜山町は石川氏の舊城地なり近傍に能褒野神社あり、新茶屋村に壺屋紙の産あり、淡村は陶工伊藤五郎太夫の生地なり、土木家河村瑞軒、甘藷先生、春木昆陽は此の國に生る

志摩 鳥羽町は一の良港を有せり舊く稻垣氏の所領たりし處なり

伊賀 上野町(一、三〇〇〇)は舊く藤堂氏の支城ありしが稍、繁華なり

岐阜縣

丸柱村は伊賀燒の産地なり、俳諧を以て有名なる松尾芭蕉は此の國に生る

美濃 岐阜市(三三〇〇〇)には縣廳、地方裁判所あり、商業は繁盛にし

て縮緬、提燈、團扇等を産す、稻葉山に城趾あり、往昔織田信長が齋藤龍興を圍みし處なり、長良川の鵜飼は世人の以て奇觀となす所なり

大垣町(一九〇〇〇)は舊と戸田氏(十五萬石)の城下たりし處にて繁華の地なりしが、水害、震災の餘を受けて稍、衰微の色あり

養老村は瀧の名所なり、關ヶ原村には有名、古戰場あり、關町には鍛工多し、刀工兼定、兼元等の生地なり、多治見町は大に陶磁器を製作す、曾根崎村は詩人梁川星巖の生地なり

飛彈 高山町(二五〇〇〇)は山間には稀に見る所の一小都會にして商業、工業共に旺盛なり、生絲、陶器、漆器を産す

古川町は一小都會なり、船津町は銀山を以て名を知らる

滋賀縣

近江 大津町(二九〇〇〇)は琵琶湖に瀕し、風景絶佳にして、交通の要路に當りて商業隆盛なり、縣廳、地方裁判所、各種の學校等あり、歩兵第十聯隊の屯在するあり、實に縣下第一の都會たるに耻ぢず

彦根町(二〇〇〇〇)は舊と伊井氏(三十五萬石)の城市なりしが、商業稍盛なり、近傍佐和山に城趾あり、石田三成の居城たりし處とす、長濱町は頗る般賑の地なり、縮緬、奉書納等を産す

滋賀村に志賀の郡の舊趾あり、三井寺、石山、唐崎等は勝地を以て名あり、坂本村は僧最澄の生地なり、粟津ヶ原は義仲戦死の地となす、水口町は舊と加藤氏の城地なりし處にして、中村栗園の墓あり、八幡町は近江豪商の居る處、傾地、麻布を販賣せり、日野町も俗に日野商人と稱する如く、商業の盛なる處なり、蒲生

氏郷は此の地の産なり、安土は往昔信長の築城せし處なり、七尾村に姉川の古戰場あり、田根村に小谷山の城趾あり、淺井久政の築きしものなり、伊香具村に賤ヶ岳の古戰場あり、青柳村は鴻儒中江藤樹の生地たり、

福井縣

越前 福井市(四、二〇〇〇)は古、北莊と稱せし地にして朝倉、柴田等の割據の地なりしが徳川時代には松平氏(三十二萬石)の城市となり、今は縣廳、地方裁判所等ありて甚だ繁昌なり、羽二重、奉書紬、蚊帳、油圍等を産して工藝も亦盛なりとす、勤王家橋本佐内は此の地に生る

三國町(一、〇〇〇〇)は一小港を有す、坂井港と云ふ、縣下の要津たり、武生町(一、五〇〇〇)は元と府中と稱し、越前家客老本多氏の采邑たりし地にして舊と國府のありし處なり、敦賀町(一、五〇〇〇)は一の良港を有す、狹小なるも亦北陸第一の要津たるを失はず、奉書紙、烏子紙を産す、此の

地は酒井氏の支封の在りし所なり

藤島村は義貞戦死の地なり、丸岡町は舊と有馬氏の采邑たりし所にて、越前を産す、大野町は舊と土井氏の城邑たりし處、奉書紬、銅線等を製す、勝山町は小笠原氏の封土たりし所なり、鯖江町は舊と間部氏の城邑のありし所なり、菅生村には雲丹の名産あり

若狹 小濱町は舊と酒井氏(十萬石)の城下たりし處なるも人口は八千五百に過ぎず若狹塗を製す

石川縣

加賀 金澤市は古、御山と稱せしが前田氏の封土となりし以來、今の名に改む、市坊の數は五百三十一にして人口は九萬餘あり、抑、本市か加越能三國百二萬餘石を領せし一大國主大名の城下たりし頃は極めて繁昌なる土地にして三都に次げる大都會なりしは疑ふべからず、

然れども維新後に至り廢藩置縣の結果として縦令縣廳地方裁判所の所在地となり或は第十九聯隊の駐屯地となりたりと雖、本市は漸、衰頽して其の人口の多少より見れば全國の都會の中に於て第七位を占むるに過ぎず、市民も茲に感ずる處ありてか、近來大に生産業に勵みて往昔の繁盛を挽回するに汲々たるもの、如く、從て絹布、漆器、陶器、銅器等の製作は大に進歩せり

大聖寺町は前田氏の支封(十萬石)の城下たりし處にして絹布を織り九谷焼を造る、小松町(一、三〇〇〇)は木綿織、加賀絹、九谷焼、壘表等を産す、

山代村に温泉あり又九谷焼の産地なり、山中村にも温泉あり盛に漆器を製す、粟生村、寺井村も亦陶器を製す、上金石町は一の小港を有す加賀國の要津たり

能登 七尾町(一、〇〇〇〇)は一の良港を有す、酒類の醸造に名あり、輪

島町(一、〇〇〇〇)は稍、繁盛の地にして漆器を産す

堀村に和倉の温泉あり

富山縣

越中 富山市(五、八〇〇〇)は舊と前田氏の支封(十萬石)の城市たりし處にて今は縣廳、地方裁判所等の所在地なり、北陸地方屈指の都會にして商業繁昌なり、俗に小江戸と稱せしは實に過賞に非ざるべし、此の地の賣藥業は海内に著名なるが近來は漸、衰微の色ありて復た昔日の隆盛を見る能はずと云へり

高岡市(三、〇〇〇〇)は工藝地なり、銅器、鑄物、漆器、傘等の産あり、滑川町(一、〇〇〇〇)は繁華の地なりとす、魚津町(一、三〇〇〇)も一小港を有し、白木綿、漆器を製す、新湊町(一、七〇〇〇)は元の放生津にして古の國府の地なりと云ふ、伏木町は一の港を有す、北陸道の要津にして、船舶の出入

多し。氷見町(二、二〇〇〇)は漁業地たり殊に鰻を以て著る
 岩瀬町は一小港を有す、石動町、福光町、城端町等は製紙地の中心として生絲、絹布、絹等の製作賣買に従事す、五箇山は麻、紙等を産す

其二 北部

新潟縣

越後 新潟市は北國第一の都會なり、港は信濃川の河口にありて夙に我が國開港場の一として算へられたり、然れども港域の大ならざるを港口に暗沙の横れるを以て船舶の碇泊に便利ならず、縣廳、地方裁判所等の所在地にして商業も盛なれば市街は甚だ繁華なり、市坊は二百三十五ありて人口は四萬九千あり又漆器を製作せり

新發田町(二、二〇〇〇)は舊と溝口藩のありし處にて歩兵第十六聯隊

の駐屯するあり、三條町(一、〇〇〇)は商業繁榮の地なり、長岡町(一、〇〇〇)は牧野氏の舊城地なり、戊辰の役、激戦のありし處なり、商業地にして繁華なり又鍋釜を製す、高田町(二、〇〇〇)は舊と榊原氏の城下なりし處にて鋸の製作に名あり、直江津町(一、一〇〇)は一小鎮地たるに過ぎざるも、縣下樞要の地たるを失はず、汽車は東京地方に達し、汽船は新潟、佐渡、伏木、七尾等に通じ商業も亦繁榮なり

白根町は額絹木綿を製し、五泉町は平絹、絹好、白練等練の綾物の産地たり、村松町は舊と堀田氏の封邑たりし所にして陶器、竹器を製す、燕町は銅器を製作す、加茂町も亦然り、燕彦村は砥石を産す、神社あり國幣中社なり、興板町は井伊氏の采邑たりし處にて酒類を醸造せり、山雲崎町は一小港を有す、繁昌の地なり、樫尾町は紬を以て名あり、小千谷町は透綾、縮布を製す、十日町も織物を産す、柏崎町は商業地たり、糸魚川町は舊と松平氏の封土たりし處なり、村上町はこ内藤氏の采邑たりし處にて桐油を製す、上杉謙信、直江兼續は此の國に生る

多し。氷見町(二、二〇〇〇)は漁業地たり殊に鰻を以て著る
 岩瀬町は一小港を有す、石動町、福光町、城端町等は養蠶地の中心として生絲、絹布、繭等の製作賣買に従事す、五箇山は麻、紙等を産す

其二 北部

新潟縣

越後 新潟市は北國第一の都會なり、港は信濃川の河口にありて夙に我が國開港場の一として算へられたり、然れども港域の大ならざるに港口に暗沙の横れるを以て船舶の碇泊に便利ならず、縣廳、地方裁判所等の所在地にして商業も盛なれば市街は甚だ繁華なり、市坊は二百三十五ありて人口は四萬九千あり又漆器を製作せり

新發田町(二、二〇〇〇)は舊と溝口藩のありし處にて歩兵第十六聯隊

の駐屯するあり、三條町(一、〇〇〇)は商業繁榮の地なり、長岡町(一、〇〇〇)は牧野氏の舊城地なり、戊辰の役、激戦のありし處なり、商業地にして繁華なり又鍋釜を製す、高田町(二、〇〇〇)は舊と榊原氏の城下なりし處にて鋸の製作に名あり、直江津町(一、一〇〇〇)は一小錨地たるに過ぎざるも、縣下樞要の地たるを失はず、汽車は東京地方に達し、汽船は新潟、佐渡、伏木、七尾等に通じ商業も亦繁榮なり

白根町は額絹木綿を製し、五泉町は平絹、紵好、白練等練の綾物の産地たり、村松町は舊と堀田氏の封邑たりし所にして陶器、竹器を製す、燕町は銅器を製作す、加茂町も亦然り、燕、彦村は砥石を産す、神社あり國幣中社なり、與板町は井伊氏の采邑たりし處にて酒類を醸造せり、出雲崎町は一小港を有す繁昌の地なり、樺尾町は紬を以て名あり、小千谷町は透綾、縮布を製す、十日町も織物を産す、柏崎町は商業地たり、糸魚川町は舊と松平氏の封土たりし處なり、村上町はと内藤氏の采邑たりし處にて桐油を製す、上杉謙信、直江兼續は此の國に生る

佐渡 相川町(一、五〇〇〇)は海内第一と稱せらる金銀山を有せり、無名異焼を産す

小木、二見、夷等の數ヶ所に港あり、真野村に 順德天皇の御陵趾あり

福島縣

岩代 福島町(一、七〇〇〇)は舊と板倉氏の城市なりしが廢藩置縣後は縣廳地方裁判所等の所在地と成り年を逐ひて繁榮に赴くと云ふ、此の地は元來東北地方の一商區たり特に生絲の賣買を以て盛なりとす、近傍岡山村に文字摺石あり

若松町(二、五〇〇〇)は松平氏の舊城地なり、維新の際の戦争を以て其の名、海内に轟けり、兵學家山鹿素行の生地なり、漆器を産す、近傍に温泉あり、本郷村は磁器を産す世に會津焼と稱ふるものなり、飯坂町に温泉あり、桑折町は養蠶地たり、川俣町は絹布を産す、二本松町は舊と

丹羽氏の采邑たりし處なり製絲に従事す儒者安積良齊の生地なり、本宮町は商業地なり、郡山町は生絲を産す一小都會なり、須賀川町は馬市場を以て名を知らる又烟草の集散地たり

磐城 白河町(一、二〇〇〇)は舊と阿部氏(十萬石)の城邑なりしが維新の際には激戦のありし處なり、陸羽街道の衝に當る一小都會にして馬の市場として名を知らる

棚倉町は舊と松井氏の城下たりし處なり、三春町は産馬地の中心として名を知らる、平町は元と磐城平と稱せしが安藤氏の舊采地なり、中村町は相馬氏の領土たりし處にして相馬焼を産す、

宮城縣

陸前 仙臺市は舊と伊達氏(六、十二萬石)の城地たりし處にて東北地方第一の都會なり、市坊は二百二十四ありて人口は七萬三千あり縣廳

地方裁判所の外、控訴院あり、第二師團司令部は青葉城にありて歩兵一旅團を除くの外、一師團を組成すべき各種の士卒茲に駐屯せり、市街は繁盛なり、就中國分町、大町を以て然りとす、本市の芭蕉の辻は有名な處とす、其他の青葉神社、櫻岡公園、榴ヶ岡、瑞鳳寺等は市内の名所たり、龍雲院には林子平の墓あり、又本市は織物の産地にして仙臺平、八ッ橋、織は世に名あり、支倉六右衛門は此の地に生る

石の巻町(一七〇〇〇)は牡鹿灣に瀕し北上川の河口にありて縣内の要津たり、萩の濱は横濱、小樽間の大航路に當り船舶の出入少なからず

鹽釜町は松島灣に枕み荷船漁舟の輻輳する處なり、多賀城村には古代の城趾あり、松島村は勝地を以て名を知らる、觀瀾亭、瑞嚴寺あり、其の他、古川町、浦谷町、登米町等は精、繁華の土地とす

磐城 白石町は舊と片倉氏の采邑たりし處にて、温麵、紙布を産せり

山形縣

羽前 山形市は元と最上町と稱せし地にして秋元氏の舊采邑たり、人口は三萬ありて縣廳、地方裁判所等の所在地にして商業も亦繁榮す、新庄町(一、一〇〇〇)は戸澤氏の采邑たりし處、龜綾織を産し、般販の地なり、城趾あり、日野將監の築きし所なり、鶴岡町(二、〇〇〇〇)は酒井氏(十五萬石)の舊城市にして商業繁昌なる一都會なり、米澤市(二、九〇〇〇)は元と上杉氏(十五萬石)の城下たりし處にて機業盛にして多く細類を製す、又漆器を製作すと云ふ、伊達政宗は此の地に生る

上の町は藤井氏の舊城邑にして紙を産す、鶴岡の温泉あり、天童町は織田氏の采邑たりし處にして舞鶴城の趾あり、寒河江町に城趾あり、大江氏の築く所なり、横岡町は精、繁華の土地とす、長瀬村は元と米津藩のありし處なり

羽後 酒田町(二、二〇〇〇)は元と砂瀉と云ひて酒井氏の采邑たり、日

本海に瀕し最上川の河口にあり、一小港たるに過ぎざるも船舶の出入頻繁にして商業も亦盛なり

秋田縣

羽後 秋田市(二、八〇〇〇)は舊と佐竹氏(二十萬石)の城下なりしが維

新後は縣廳、地方裁判所等の所在地となりて商業繁榮す又機業地にして軟織、八丈編等を製す國學者平田篤胤の生處なり

土崎港(二、二〇〇〇)は縣下の要港にして百貨集散し商業頗る盛なり、能代町(一、〇〇〇〇)は一小港を有す又春慶塗を製す、本庄町(一、〇〇〇〇)

は六郷氏の采邑たりし所にして横手町(二、二〇〇〇)繁華の地なり

大館町は要路の地なるを以て商業稍なり、阿仁村に有名の銅山あり、龜田町は岩城氏の舊城邑なり、矢島町は生駒氏の居城たりし所なり、湯澤町は安齋地なり、院内村には金銀山あり、西馬音内村は佐藤信淵の生地なり

陸中 尾去澤村に銅山あり、小坂村に銀山あり

岩手縣

陸中 盛岡市(三、二〇〇〇)は舊と南部藩(二十萬石)の城地たりし處なり、縣廳あり、地方裁判所あり、仙臺に次げる東北地方の都會たり、商業稍盛にして又紬、鐵瓶の産あり

厨川村に櫛の遺趾あり貞任の居りし所なり、御堂村に弓宿清水あり北上川の水源をなす、黒澤尻町は交通上、樞要の地たり、水澤町は高野長英の生地なり、衣川村に櫛の遺趾あり、岩谷堂村は繁華の地なり、一の關町は田村藩の舊領地にして商業地をなす、殿美村に五串の瀧あり、平泉村に毛越寺、中尊寺あり又平泉の舊趾あり、釜石町に鐵の産あり、宮古町は一の良港を有す、船舶の碇泊に便なり、久慈町も亦一小港を有す

青森縣

陸奥 青森町(二、四〇〇〇)は青森灣に枕む一小港なり、縣廳地方裁判所等ありて甚だ繁華の地とす、第四旅團司令部ありて歩兵第十七聯隊を駐屯せしむ

弘前市(三、〇〇〇)は津輕氏(十萬石)の舊城下にして縣内第一の都會たり、漆器を産す、八戸町(一、一〇〇〇)は南部氏の支封の地なり、商業繁榮す、近傍に鰻、鮫の二港あり

黒石町は津輕氏の支封の地なり、七月村は舊と七月藩のありし所なり、野邊地村には一の港あり繁盛の地とす

其三 西部

京都府

山城 京都市は畿内平野の一隅にありて桂川の流域に當り東山と

稱する一帯の山脈を扣へ、加茂川は其の麓を洗ひて本市を貫流せり、東西凡そ二里、南北凡そ一里半あり、市内を分ちて二區となす、三條通、以北を上京とし以南を下京とす、人口は凡そ三十二萬ありて實に本邦第一の都會たり、抑、本市は 桓武天皇の奠都以來、明治の遷都まで一千有餘年の間、我が帝國の首府たりし處にして街衢の整然として清潔閑雅なること海内無雙なり、加茂川には三條、四條、五條の三大橋并に其の他、數條の小橋を架するあり、道路は稍、狹隘なるも鐵路は東京、大坂、神戸、奈良等に通せり、近傍の山野は風色明媚にして名所舊蹟に富めるは世人の知る所なり、今茲に主なるものを列舉せんに、舊内裏、仙洞御所、二條の離宮を始めとし神社には八坂神社、北野神社あり、佛閣には智恩院、建仁寺、清水寺、東西兩本願寺、方廣寺、泉涌寺、南禪寺、銀閣寺、金威光明寺あり、されば此の地に來遊するもの絡繹として絶ゆることなく、加ふ

るに府廳地方裁判所各種學校銀行商社等あり又西陣にては織物を製し栗田清水に於ては陶磁器を作る其の他漆器扇子等を産せり

京師の産にして有名なる人物は經世家に熊澤蕃山あり儒者に伊藤仁齋林羅山山崎闇齋あり僧侶に親鸞上人あり齒家に土佐光信同光起相阿彌狩野元信同探幽尾形光琳あり劍工に來國光三條宗近栗田口國友あり甲冑工に明珍宗介あり染工に友禪あり陶工に樂長祐野々村仁清あり蒔繪工に山本春正あり

伏見町(一七〇〇)は京坂の間に於ける要區にして繁華の地なり工兵一大隊は此の地に駐屯せり有名なる彫刻家左甚五郎は此の地の産なり町の近傍に伏見城の趾あり

脩學院村に離宮あり下鴨村に御祖神社あり上賀茂村に別雷神社あり衣笠村に平野神社鹿苑寺あり花園村に仁和寺あり嵯峨村に清涼寺天龍寺あり松

尾村に櫻花山水を以て有名なる嵐山あり深草村に稻荷神社あり桃山あり宇治村附近の地は製茶を以て高名なり菟道に萬福寺あり黄檗宗の總本山たり宇治町は宇治川に頼す名勝の地たり平等院あり淀町は元と稻葉氏の所領たりし處にして城趾今尙ほ存せり八幡町には男山神社あり木津町は大和街道の一名邑たり笠置村には行在所の舊趾あり

丹波 龜岡町は元と松平氏の領地たりし所なり福知山町は朽木氏の舊城地なり其の他園部町綾部町等は名邑たり齒家圓山應舉は此の國の産なり

丹後 舞鶴町は良港を有せり第四鎮守府の開設あるべきの地なり府中村に有名なる天の橋立あり日本三景の一なり宮津町は本庄氏の城下たりし處にして鎭地なり繁華の地とす峯山町は舊と京極氏の封邑たり丹後縮緬の生産地なり

大坂府

攝津 大坂市は近畿平野の南部に位し大坂灣に瀕す廣袤は東西一

里半、南北二里十町あり、市内を東西南北の四區に分つ、市坊の數は五百十三にして人口は四十八萬五千あり、實に帝國第二の大都會なり、抑、本市の繁榮は往昔豊臣秀吉が此の地に居城を築きて施政の中心と定めしに起り、徳川時代にありては國主大名の多くは倉屋敷を設けて商業發達の基をなし、今の世に當りては府廳を始めとし、地方裁判所、控訴院、第四師團司令部等を置くのみならず、近來は開市場となして外國貿易を許せしに因らずんばあらず、梅田、湊町、難波に停車場を設けて汽車の發着に備へ無數の運河は貨物の運搬に便益を與へ、高麗、天満、天神、浪花等の大橋、其他、千百の橋梁を架するあり、安治川口には巨船の出入するあり、所謂四通八達の地にして商業大に開け實に海内第一たり、加之、近年工藝大に興りて綿絲の紡績、燐寸の製造、鐵器、銅器の製作等に從事するのみならず、其他、種々の雜貨を産出せり、大坂城は市の東部に

あり、規模の宏大なる、建築の堅固なる、天下無雙と稱せり

史家の頼山陽、畫家の英一蝶、文學家の近松門左衛門、名士の大鹽平八郎等は此の地の産なり

難波村(二、五〇〇〇)、三軒屋村、上福島村(一、二〇〇〇)、曾根崎村(一、二〇〇〇)は大坂市附近の名邑たり、川崎村に造幣局あり、天保村に天保山あり、船舶入津の目標たり、天王寺村(一、七〇〇〇)に有名の古刹あり、茶白山に古戰場あり、西高津村に生國魂神社あり、東平野町(一、二〇〇〇)、玉造町は繁華の地なり、平野郷町は商區たり、住吉村には著名の社あり、富田村は清酒を醸造す、茨木村に總持寺あり、清酒を醸造す、警平村は古曾部焼を産す、島本村に櫻井の驛の舊趾あり、池田町は清酒の醸造を以て名を知らる、又炭を製す

和泉 堺市(四、六〇〇〇)は往古、互市場たりし頃の如く盛大ならざる

も亦商業繁榮の地なり、又鐵器、銅器、真田紐、段通等を製出するの地なり、妙國寺、南宗寺は著名の巨刹なり、大濱には海水浴場の設けあり、此の地

は千利休の生處なり

船の村に 仁徳天皇の御陵あり、鳳村に大鳥神社あり、陶器村は行基焼を製せし處なり、岸和田町は元と岡部藩のありし處なり、僧行基は此の國の産なり、河内 赤坂村に城趾あり、楠正成が關東の大軍を防禦せし處なり、又正成の生地なり、千早村に有名なる千早城の趾あり、天野村に金剛寺あり、狹山村は元と北條氏の領邑たりし處なり、山田村に百濟寺の廢趾あり、四條村は正行戰死の地たり、天文家保井春海は此の國に生る

奈良縣

大和 奈良町(二、五〇〇〇)は往昔八十餘年の間、我が帝都たりし處にして、平城と云ひ或は南都と稱せり、當今は縣廳、地方裁判所等の官衙ありて、木綿織、曝布を産す、商業も亦稍盛なり、繁華の地とす、此の地は名祠、巨刹に富めるを以て來觀するもの陸續絶へず、春日神社、東大寺、興福

等寺は最、世人の知る所なり、畫家土佐光長、佛像彫刻家法印、運慶の生地なり

郡山町(一、三〇〇〇)は繁華の地なり、元と柳澤氏の城市たりし處なり、城趾今尙存せり

多門山に城趾あり、松永久秀の築く所なりと云ふ、月の瀬村は梅林を以て名を知らる、筒井村に城趾あり、筒井順慶の築く所なり、都跡村の赤膚山は陶器を製せし處なり、丹波町は稍繁華の地なり、法隆寺村に有名の古寺あり、一名を班鳩寺と云ふ、三郷村に龍田神社あり、三輪町に大神々社あり、初瀬町に長谷寺あり、櫻井町は名邑たり、多武峯村に談山神社あり、高取町に城趾あり、植村氏の居城たりし處なり、白根村に敵傍あり、我が高祖神武天皇の御陵の地なり、當麻村に有名の寺あり、五條町は繁榮の點より見れば、縣内第二の小都會なるも、人口は七千に充たず、下市町は吉野郡にありて、漆漉紙、漆器等を産し、繁華の地とす、吉野村には櫻花を以て稱せらる、吉野山あり、又歴史上著名の所とす、

和歌山縣

賀名生村に行宮の趾あり

紀伊 和歌山市は紀伊の川の河口に於ける都會にして舊く徳川氏（五十五萬石）の城下たりし處なり、市坊の數は四百餘にして人口は五萬五千なり、縣廳、地方裁判所等ありて縣内施政の中心たり、港は狭小なるも錨地とするに足り、百貨の集散自由にして商業は盛況を呈し、特に多量の蜜柑を輸出せり又綿、ラナル、雲齋織、松華傘を製産せり、此の地は徳川吉宗の生處なり

新宮町（一、二〇〇〇）は水野氏の領邑たりし處にして薪炭を發送せり、紀三井村に金剛寶寺あり、黒江村は大に漆器を製作し、粉河村には巨剎あり、神野村は紙を産す、加太村に小港あり、湯淺村は蠟燭を産す、高野村に金剛峯寺あり有名の古剎あり又紙を製す、田邊町は紀伊家の客老安藤氏の封土たりし

處なり、那智村は瀑布を以て名を知られ、黒石を産す、東山村は古屋石を産す、本宮村に熊野神社あり

兵庫縣

攝津 神戸市は帝國第六の都會にして兵庫神戸を合稱したるものなり、大坂灣の西北に位し北は丘陵を控へ南は兵庫、神戸の二港を擁し土地狹長にして廣濶なる市街たるを得ざるも亦風色は見るに足るものあり、神戸港は水底深くして大艦巨舶を容るるに便にして、兵庫港は小船漁舟を停繫するに適せり、今を去る凡そ三十年前始めて互市場を本市に開きしより以來、日に月に隆盛に趣き現時の繁榮を觀るに至れり、殊に海岸通り、榮町通り、多門通り等は最も商業の昌なる處とす、又隣寸、綿絲、其の他、各種の雜貨を製作せり、市坊の數は百三十に過ぎざれども、人口は年々増加して將に十六萬に達せんとせり、官衙には縣廳、地

方裁判所、税關、海軍造船所等あり、然れども市内に遊覽の地少なく、唯、諏訪山、湊川の二公園并に布引の瀑布あるのみ、又舊蹟の地も多からずして、湊川神社に楠公を祠るあり、廣巖寺に楠氏一族七十三人自盡の地とする處あるのみ、兵庫は古の福原の都の地なり

西の宮町(一、二〇〇〇)は清酒の醸造を以て有名なる處とす、尼ヶ崎町(二、四〇〇〇)は元と櫻井氏の封土たりし處にして商業繁昌せり、國學者僧契沖の生地なり、湯山町に有馬の温泉あり、日本三湯の一なり、竹細工を産す

須磨村は勝地たり一の谷の古戰場あり、今津村は清酒を醸造せり、其元村に寶塚の礦泉あり、御影町も亦清酒醸造の地なり、住吉村は御影石を産す、伊丹町は清酒の醸造を以て名を知らる、三田町は舊と九鬼氏の領邑たりし處にして播丹街道の衝に當り繁華の地なり、青磁焼を産せり

丹波 篠山町は舊と青山氏の領有せし處なり、檜ヶ繁華の地とす

但馬 生野町は銀山を以て有名なり、豐岡町は京極氏の封土たりし所にし、一小都會たり、柳行李を産す、出石町は仙石氏の居城のありし處にして白磁器を製す、資母村は紙を製出す

播磨 明石町(三、〇〇〇〇)は元と松平氏の城地たりし處にして明石、浦に瀕せり、人丸神社あり、明石玉井に木綿を産す、姫路市(二、六〇〇〇)は元と酒井氏(十五萬石)の城下たりし處にして天主閣は今尙存せり、歩兵第八旅團の司令部ありて第二十聯隊を駐屯せしむ、革細工、高砂染を以て名あり、經世家野中兼山は此の地に生る

垂水村の海濱は勝地たり、舞子の濱と云ふ、三木町は又物を製す、志染村に億計弘計二王子の舊蹟あり、細川村は碩學藤原愷高の生地なり、上、福田村に三草山の古戰場あり、高砂町は要津たり有名の相生の松は高砂神社にあり、大鹽村は製鹽に名あり、飾磨町は一小港を有せり、曾左村に香高山圓教寺あり、英賀保村に城趾あり、三木氏九代の居城たりし所なり、網干町は船舶修築の地なり、酒

類を醸造す、龍野町は舊と小笠原藩のありし處なるが醬油製造のを以て有名なり、室津村は一の良港を有せり、赤穂町は舊と森藩に屬せり、盛に食鹽、燒鹽を製す、其の名四十七義士の名と共に高し、赤松村に白旗城の廢趾あり

淡路 洲本町は稻田氏の城代の居りし處なり、由良、福良の二町は共に鐵地たり、伊賀野村は陶器を産す、陶工加集、珉平は此の地に生る、佛齋家兆殿司は此の國の産なりと云ふ、郡志村は航業家高田屋嘉兵衛の生地なり

岡山縣

備前 岡山市(五〇〇〇〇)は舊と池田氏(三十萬石)の城下たりし處にて當今は縣廳、地方裁判所等あり、旭川は市街を貫流し、百貨の輻輳を便にす、商業盛昌にして繁華の地なり、實に山陽道第二の都會たり、又紡績製絲に従事す、鳥城は天主閣のみを存し、後樂園は依然として天下の名園たるを失はず、大石良雄、湯淺常山は此の地の産なり

御野村は壘表を産するの地にあり、吉備津神社は一の宮村にあり、伊部村は陶器を製す、行幸村は刀劍の鍛冶を以て有名なる長船近忠の生處なり、兒島郡の各村は小倉織、真田織、雲齋織を産し、其の沿海地方は製鹽に従事せり

備中 早島村、其の他に壘表を産す、三須村は藪家、雪舟の生處なり、倉敷町は商業繁榮の地なり、玉島町は一の小港を有せり、笠岡町も一の要津たり、神島外村に高島宮の舊趾あり、真金村に吉備津神社あり、高松村は秀吉の水攻を以つて名あり、阿曾村は鑄物を製す、高梁町は板倉氏の舊城下なり、商業稍盛なり

美作 津山町(二二〇〇〇)は舊と松平氏の領邑たりし處にして雲齋木綿、鑄物等を産す

勝山村は元と三浦氏の封土たりし處なり

廣島縣

安藝 廣島市は太田川の數派に別れて三角洲を爲せる處に於ける

都會なり、廣袤は東西一里半、南北一里にて人口は八萬五千あり、近來宇品に波止場を築造し道路を改脩せしを以て船舶の碇繋に適するのみならず車馬の往來に便なり、官衙には縣廳、地方裁判所、控訴院等あり、第五師團司令部は舊城内にありて各種の兵の駐屯するあり、商業盛にして雜貨の製作も亦少なからず、誠に山陽道第一の都會なり、抑、本市は毛利輝元が此の地に居城を建造せしに起り其の後、淺野氏(四十二萬石)の封邑となりて益々繁榮し維新の改革を経たるも遂に中國の巨鎮たるを失はざりき、特に明治廿七八年の役に當り本市の名字内に發揚せられたり、醫士吉益東易は此の地に生る

大朝村は鐵を産し又鑄物を製す、栗屋村も亦鐵の産地なり、忠海町は一の小

吳港は第二海軍區の鎮守府の所在地にして軍港の一なり、嚴島町に神社あり日本三勝地の一なり

港を有し木綿織を産す

備後 尾道町(一、九〇〇〇)は一の要港にして商業甚だ盛なり又酒酢、鐵器を製す、福山町(一、五〇〇〇)は元々阿部氏(十萬石)の城下たりし處にして城趾には今尙々天主閣を存す、素麵の産あり

三原町は食鹽、酒類等を造る、繁華の地也す、鞆町は商業の盛なる地なり、又保命酒、酢、鐵器等を製す、山南村並に沼隈、御調の二郡の諸村は世に備後と稱する、産表を産す、奴可郡各村に鐵を産す、左原村は奉書紙、杉原紙を製す

山口縣

周防 山口町(一、五〇〇〇)は往昔大内氏の居城たりし時代に於ては一大都會なりしが、毛利氏(三十七萬石)の所領となりし以來、僅に城代を置きしに過ぎざれば衰微を極めたり、其の後、文久年間に至り毛利氏が此の地に牙城を設けたるを以て稍々繁華の地となりしが、維新後は縣

應、地方裁判所、高等學校等の所在地となりて益々隆盛の域に進めり
 三田尻村(一〇〇〇〇)に一の小港あり、縣内の要津とす、岩國町は元と
 吉川氏の城市にして錦川に瀕す、此の川に架する錦帯橋は世人の知る
 所なり、木綿、縮布、蚊帳を産す

吉敷村に高の峯の城趾あり、大内義長の築く所とす、徳山村は舊と元利氏支
 藩の城邑なりし處にて一の小港を有す

長門 赤間關市(三三〇〇〇)は北に丘陵を負ひ、南は海峡を以て豊前
 の明神岬と相對す、其の距離は六町を過ぎず、港内は水深くして大船巨
 艦の碇泊に便なり、此の地は瀬戸内海の咽喉に當るを以て砲臺を築き
 要塞砲兵をして之を守らしむ、神社には赤間宮あり、佛閣には引接寺あ
 り、萩町(二〇〇〇〇)は元と毛利氏の城市たりし處にて、繁華の地なり、松
 本焼を製せり、勤王家吉田松陰は此の地の産なり

長府村は竹細工、五色鹽を産す、大内義長戦死の地とす、又禮の浦は平氏滅亡
 の地として有名なり、深川村に温泉あり、又陶器を製す

島根縣

出雲 松江市(三、五〇〇〇)は元と松平氏(十萬石)の城下たりし處にし
 て今は縣廳、地方裁判所等ありて繁華の地なり

杵築町に出雲大社あり、美保關港は一の要津たり、出雲郷村は古の國府の地
 なり、湯町村は玉細工を爲し、布志名焼を作、玉造村は瑪瑙、水晶を産す、廣瀬町
 は松平氏の支封の地にして陶器を製す、此の地に富田の城趾あり、尼子氏の築
 きし所とす、母里にも松平氏の支封ありたり、比田山、佐布部の各村は鐵を産す
 石見 濱田町は松平氏の舊封土のありし所なり、津和野町は元と龜井氏の
 城地たりし處なり、紙祖村、其の他の諸村に於て半紙を製す、福光、仁萬の二村に
 石細工あり、温泉津は一の小港なり、出羽、矢上の二村は鐵を産す

隱岐 西郷港は樞要の地なり、海士村に 後鳥羽法皇の舊蹟なり

鳥取縣

因幡 鳥取市(二、六〇〇〇)は元と池田氏(三十二萬石)の城下たりし處にて、今は縣廳地方裁判所等の所在地となり、往昔の繁華を失はざるもの、如し、國學者香川景樹は此の地に生る

國府村は古の國府の地なり、浦富村は白珊瑚を産す、若櫻村、鹿野村は共に池田氏の支藩の舊地なり、用瀬村は柳行李を産す

伯耆 米子町(一、五〇〇〇)は商業繁昌にして當國第一の都會たり

倉吉は木綿飛白を産す繁華の地なり、社村に古の國府の地あり、以西村に船上山あり、境港は良港たるに非ざるも亦山陰道、風指の要津たるを失はず

四國島

德島縣

阿波 德島市(六、一〇〇〇)は舊と蜂須賀氏(二十六萬石)の城下たりしが當今は縣廳地方裁判所等の所在地となり、漕運の利ありて百貨の集散に便なり、商業隆盛にして土地繁華なり、實に四國島第一の都會たり

撫養町(一、八〇〇〇)は縣下の要港にして齋田鹽を産す

國府村は古の國府の地なり、小松島は鐵地たり、細江村の池谷に 土御門天皇の舊蹟あり、池田村は三好氏の古地なり、半田村は漆器を製す

香川縣

讚岐 高松市(三、五〇〇〇)は元と松平氏(十二萬石)の城下たりし處なるが、當時は縣廳地方裁判所等ありて至りて繁華なり、水運の便あり又保多織を製するを以て名あり

丸龜町(一、八〇〇〇)は元と京極氏の城地たりしが今は歩兵第二十一聯隊の駐屯所するあり又縣下の一要津にして商業繁昌せり、觀音寺町

(一、二〇〇〇)は繁華の地なり

引田村は砂糖醬油を産す、松原村は製鹽の地なり、志度村は崇徳天皇の行在所のありし處なり、瀧元村に屋島の古戰場あり、坂出町は製鹽を以て名あり、松山村に細川清氏の城趾あり、美合村は葛布を製す、琴平町は金毘羅宮を以て名を知らる、多度津町は京極氏の支封の地にして漕運の便あり、善通寺村の屏風ヶ浦は僧空海の生地なり、仁尾村は醬油を造る、

愛媛縣

伊豫 松山市(三、四〇〇〇)は松平氏(十五萬石)の舊城下たり、縣廳あり、地方裁判所あり、第十旅團の司令部ありて歩兵二十二聯隊を駐在せしむ、木綿繅を産す、繁華の地なり

道後湯之町には有名なる温泉場あり、日本三湯の一なりとす、今治町(二、四〇〇〇)は松平氏の城下たりし處にして稍、繁華の地なり

西條町は松平氏の封邑たりし處なり、別子山村に銅山あり、河野村は河野氏立脚の地なり、三津濱町は一の要津たり、興居島に由良港あり、櫻井村は古の國府の地なり、新渡、弓削、岩城、波止、濱、多喜、濱等の諸村は製鹽地なり、砥部村は砥石、磁器を産す、松前村、其の他の諸村に製糖に従事するもの多し、大洲町は加藤氏の封土たりし處なり、宇和島町は伊達氏の居城のありし處なり

高知縣

土佐 高知市(三、五〇〇〇)は元々山内氏(二十四萬石)の城下たりし處なり、今は縣廳、地方裁判所等の所在地にして繁華の地なり

津呂村は鯨鯨を以て名あり、室戸村は珊瑚を採取す、國比左村は古の國府の地なり、岡豐村は長曾我部氏立脚の地たり、浦戸に港あり、高知の要津とす、御座瀬、宇佐、久禮等の諸村、井に須崎町は漁鹽の地なり、戸波、上山等の各村は製紙の地なり、此の外、安藝、赤岡、高岡、中村等を以て縣下の名邑とす

九州島

長崎縣

肥前 長崎市六、四〇〇〇は往昔鎖港時代にありては我が國唯一の貿易港なりしを以て甚だ隆盛の地なりしが、他に横濱、神戸等の如き通商港の開かれしより以來大に其の聲價を落せしと雖、亦帝國の要港たるを失はず、徳川氏は此の地に奉行を置きて外國通商の事を管せしめしが、維新後は縣廳、控訴院、地方裁判所等を此の地に設けて施政の中心となし、税關を置きて貿易品の出入を管理せり、商業繁盛にして雜貨の製作なきにしもあらず、依然として九州島の第一の都會たり、砲術家高島秋帆、畫家熊斐は此の地の産なり

佐世保港(一、三〇〇〇)は軍港の一にして第三海軍區の鎮守府のある

處なり

島原村は元と松平氏の城邑たりし所にして砂糖、七島産を産す、平戸町は松浦藩の舊地にして陶器を製す、野母村は有名の青魚子の産地なり、大村町は元と大村氏の領地にして砂糖を産し、七島産を製せり、口之津港は特別輸出港の一なり、小瀬村に小瀬温泉、岳等の温泉あり、福江村は五島にありて五島氏の領邑たりし所なり、捕鯨に従事す

壹岐 那賀村に古の國府の遺址あり、勝本は香椎村にあり、郷ハ浦は武生、水村にあり共に漁業の地たり

對馬 嚴原は往古より朝鮮の貿易に従事す、當今も特別貿易港の一たり、此の地に分遣隊の駐屯するあり

佐賀縣

肥前 佐賀市(二、九〇〇〇)は元と鍋島氏(三十萬石)の城下たりしが現

今は縣廳地方裁判所の所在地として商業も稍盛なり、儒者古賀精里は此の地の人なり

唐津町は小笠原氏の封土たりし處にて一の小港を有す、縣下の要津たり、海軍石炭庫あり、陶器の産地なり、有田町は大に磁器を製す、陶工坂井田柿右衛門、吳須權兵衛は此の地の産なり

伊萬里町に小港あり、往昔は各地に陶磁器を輸出せしを以て有名なり、鍋島村は鍋島家立脚の地なり、春日村に古の國府の遺址あり、小城町は佐賀藩の支封の地なり、名古屋村は秀吉征韓の師を起せし際、行台のありし處とす

福岡縣

筑前 福岡市(五、八〇〇〇)は博多と福岡とを合せ稱するなり、舊と黒田氏(五十萬石)の城下にして現時は縣廳地方裁判所等の所在地なり、又歩兵第二十四聯隊の駐屯するあり、博多織の本場にして蠟燭の産地なり

り、商業繁昌にして頗る有望の地とす、儒者貝原益軒、織工竹若伊右衛門は此の地の人なり

箱崎町は名邑たり、須惠村は陶器を製す、置屋町は鐵器を製す、朝倉村は齊明天皇の行宮の地なり、秋月町は黒田氏の支封の地なり、樟腦を産す、太宰府は歴史上有名の地なり、西新町は陶器を製す、岩戸村は檀樹を栽培せし高橋善藏の生地なり

筑後 久留米市(二、六〇〇〇)は元と有馬氏(三十萬石)の城下にして繁華の地なり、木綿綿を産す、大川町(一、〇〇〇〇)は鑄物を産す、鑄物師樹友政は此の地に生る

國分村は古の國府の地なり、上妻村は紙を製す、岡山村は鰯池織を製す、古川村は紙を製す、柳川町は元と立花氏(十一萬石)の封土たりし處にして、繪、紫華の地なり、太宰田町には石炭山あり

豊前 小倉町(一、七〇〇〇)は元と小笠原氏の領邑たりし處なり、第十

四旅團司令部あり歩兵第二十三聯隊を駐在せしむ木綿織を産す
文、字、岡、村に門司港、田ノ浦あり、東郷村は硯石を産す、上野村に陶器の産あり、
豊津村に織物の産あり、田川郡の諸村は石炭の産地なり

大分縣

豊後 大分町(一、〇〇〇)は元と府内と稱せし地にて松平氏の封邑
たりし處なり、當今は縣廳地方裁判所等ありて稍繁華なり、七島藺を
移植せし橋本五郎右衛門は此の地に生る

白杵(稻葉佐伯(毛利)竹田(中川)森(久留島)杵築(松平)日出(木下)等は小藩の封邑た
りし處なり、日出は儒者帆足萬里の生地なり

豊前 中津町(一、三〇〇)は舊と奥平氏の城邑たりし處にして小倉
織を産す、蘭學者前野樂山は此の地の産なり
宇佐町は官幣大社宇佐神宮を以て其名を知らる、山國川の上流に耶馬溪の

勝地あり

熊本縣

肥後 熊本市(五、七〇〇)は舊と細川氏(五十四萬石)の城下なりしが
維新後は縣廳地方裁判所等の官衙の所在地となりしのみならず、第六
師團司令部を此の地に置きて各種の兵若干を駐在せしむ、實に九州島
の巨鎮たり、熊本城は有名の城にして加藤清正の築きし所とす、明治十
年の役、重圍に陥りし所なり、經世家横井小楠は此の地の人なり

八代町(一、〇〇〇)は相良氏の舊領地なり繁榮の地とす

宇土町は細川家の支藩のありし地なり、三角港は縣下第一の要津たり、長洲
町は繁華の地なり、山鹿町は名邑たり、植木町、田原村は十年の役、激戦のありし
地なり、隈府町は往昔隈部城のありし處なり、菊池村は菊池氏立脚の地なり、大
津村は山脈を産す

宮崎縣

日向 宮崎町は縣廳、地方裁判所、學校等の所在地なるも一小都會たるに過ぎずして人口は一萬に達せず

都城(一、二〇〇〇)に高千穂宮の遺址ありと云ふ此の地は元と島津氏に屬せり

延岡町は舊と内藤氏の領邑なりし處なり、佐土原村は古の國府の地にして島津氏の支藩のありし處なり、飯肥村は伊東氏の舊領地なり、木材を産す、油津は一小良港として名を知らる、高鍋村は秋月氏の藩地たりし處なり、都於郡は伊東氏始めて地頭となりし處なり、細島村に一港あり、狭小なるも安全なりとす、高千穂村は歴史上著名の地とす

鹿兒島縣

薩摩 鹿兒島市(五、六〇〇〇)は元と島津氏(七十七萬石)の城下たりしが、今は縣廳、地方裁判所等の官衙あり、學校には尋常師範學校、尋常中學校の外に一の高等學校あり、造士館と稱す、本市は鹿兒島灣に瀕するを以て船舶の碇繋に便なれば頗る繁華なり、陶器、上布、木綿、絨草の製作に従事し商業も亦盛なり、市の近傍に城山あり、十年の役、西郷隆盛が戰死せし處なり、明治維新の元勳たる西郷南洲は此の地に生る

揖宿村は烟草を以て名を知らる、南方村に鹿籠の金山あり、下伊集院村、苗代川は有名の陶器を製す、高城村は古の國府の地なり、平佐村は皿山燒を産す、出水村も烟草を産するを以て名あり、阿久根村は燒酎を醸造す

大隈 櫻島村は巨大なる蘿蔔を産するを以て有名なり、加治木村は石材を産す、竜門司は陶器を製出す、横川村に金山あり、國分村は烟草を以て有名なり、東郷山村に霧島神社あり、高山村は肝付氏立脚の地なり

鹿兒島 大島の伊津部村は名瀬、間切にあり、本島第一の名邑たり、大熊港、

其の他、二三の小港あり、本島は黒砂糖、木綿絣を産出するを以て有名なり、喜界島に瀬港、東港の二小港あり、井之川港は徳之島にあり

沖繩縣

沖繩島 那覇(三、二〇〇〇)は中頭にあり、西村、東村、若狹町、泉崎村、久米村、泊村より成り本縣第一の都會とす、縣廳、地方裁判所等の所在地にして縣下施政の中心たり、港は良好なるに非ざるも船舶の出入頻繁にして商業隆昌なり、木綿絣、芭蕉布、漆器、煙草の製造に従事し又砂糖を輸出せり、社寺には天照太神宮、護國寺等あり、久米村は閩人三十六姓の子孫の居住する處にして孔子の廟あり、泊村には崇元寺あり、歴代國王の廟地たりし處なり、首里(二、五〇〇〇)も亦中頭にあり、元と琉球國の首府たりし處なり、舊王城に分遣隊の營所あり、其の他、師範學校、中學校、病院等あり、佛閣には圓覺寺、天王寺、天界寺あり、之れを首里の三大寺と稱す、又

按司、士族等の邸宅多し、芭蕉布、木綿絣、煙草を製出す、繁華の地なり

中城、間切に古城地あり、長祿年間按司護佐丸の居城たりし所なり、讀谷、山間切は大に砂糖を産す、島尻の眞和志、間切、安里村に先王廟井に入幡宮あり、大里間切は山南王の自立せし處とす、小線間切は絹絣の本場とす、國頭の今歸仁、本部の雨間切は芭蕉布の本場とす、運天港は今歸仁間切に属す、本島第一の良港なりとす、此の間切中の親泊村に山北城の趾あり、羽地間切に銅山あり、大宜味間切に一港あり、鹽屋港と云ふ

座間味嶋に阿護港あり、沖繩三良港の一なり

久米嶋に兼城港あり、本島は有名なる絹絣の本場と稱す

宮古嶋に狩股港あり、本島は紺地、縞絣、上布の産地なり

石垣嶋に石垣港あり、本島は白地、縞絣、上布の産地なり

西表嶋に船浮港あり、沖繩三良港の一なり

與那國島は健康地なるも、良港なきを缺點とす、僅に宗納村に一の錨地あり、南太津口と云ふ、本村の近傍に屋島墓と稱するものあり、平家の殘黨の墓地なり

リとす

北州島

北海道廳

渡島 函館港六、三〇〇〇は舊名を「ウシロヨケシ」と云ひ北州島第一の良港にして貿易港の一たり、其の形狀巴字に似たるを以て一名を巴港と稱す、水深くして大船巨舶の碇泊に便なり、商業隆昌にして至りて繁華の地なり、貿易は甚だ盛なるにあらざるも其の發達は敢て望みなきに非ず、市街は一小半島に跨り後に臥牛山を負ひて眺望絶佳なり、街衢は井然として見るに足るものあり、東濱町、仲濱町、末廣町等は最、般販の地とす、官衙には控訴院、地方裁判所、税關等あり、函館山に添ひて公園地あり、最、遊樂に適す、神社には八幡神社、招魂社あり、佛閣には本願

處

寺別院、高龍寺等あり、港口に一の舊式砲臺あり、辨天崎の砲臺と稱す、往昔松前氏の築きし所なりと云ふ

福山(一、一〇〇〇)は舊名を「マトマイ」と云ふ、一小港なり、舊松前藩の城下たりし處なり、福山城趾は今尚ほ存せり、江差(一、五〇〇〇)は隅島を控へて一小港を爲せり、鯨漁の盛なる地にして姥神大神宮の社あり

龜田村は漁業の地なり、湯の川に温泉あり、五稜廓は戊辰の役を以て有名なり、其の趾今尚ほ存せり、又製氷の地として名あり、七飯村に青種場あり

後志 小樽港(三、四〇〇〇)は舊名を「オタナイ」と云ひて本道第二の要港たり、船舶の出入頻繁にして炭鑛鐵道の起點たり、商業盛大なるのみならず又漁業の中心たり、鑄物、鐵器を製出し、魚油を精製し、葡萄酒、晒箔を産す、市街は狹長に過ぐるも亦風色は佳ならざるに非ず、手官、色内等は本港の名區たり

余市、古平、岩内、壽都等の各港は盛に鍊を漁獲するを以て名あり、壽都郡内に津輕陣屋の趾あり、積丹郡内に神威岬あり、往昔は此の岬より以北に婦人の入ることを禁じたりき、奥尻島は漁業の盛なる處なり

膽振 室蘭港は函館、札幌間に於ける一の要港にして炭鑛鐵道の起點なり又第五鎮守府の開設せらるべき地なり、未だ隆昌に至らざるも頗る有望の處とす、此の地に佳良の雲丹を産す、又祝津砲臺の跡あり

輪西村に南部陣屋の址あり、白老村に仙台陣屋の舊址あり、岩雄登は硫黄を産せり、紋蔵村に製糖會社あり、樽前附近は鹽の好漁場なり

日直 佐瑠は畜士民の巢窟なり、沙具沙、允登は釀内郡中にあり、平取村に義經社あり、津河、幌内は共に三百餘戸の村落たるに過ぎざれども此國南海岸の要地たり

十勝 茂寄村は沿海の一少驛たり、大津村も亦沿海にあり、燐枝を製す

石狩 札幌(二七〇〇〇)は石狩原野の中央に於ける一都會にして本

道施政の中心たるに適せり、道廳あり、地方裁判所あり、屯田兵司令部あり、農學校、師範學校等あり、街衢の井然として區劃の正しきこと實に海内第一とす、創成川は南北に流れて區内を東西に分ち、大通りは市街の中央を貫きて南北の二部に分つ、而して南一條通りは豪商大賈多くして最、繁昌の地とす、製麻、製糖、製粉に従事する會社あり、又葡萄酒農具等を製造する處あり、炭鑛鐵道會社は本社を此の地に設けたり、中島に園遊地あり、圓山は名勝の地たり、其の麓に札幌神社あり

藤、似、瀧川、沼、貝、永山の各村には屯田兵の駐在するあり、石狩は漁業の地たり、江別村は江別川と石狩川との相會する處にあり、運輸交通の便あり、頗る有望の地とす、江別川に一の鐵橋を架せり、本道第一と稱す、岩見澤も亦交通上、一の要區たり、空知、幌内、郁春、別夕、張は石炭の産地として名を知らる、其の他、上川郡に永山村あり、樺戸郡に新十津川村あり

天鹽 増毛港は當國の最も重要なる地とす、船舶の出入、積、積繁にして鍊

流の中心たり、留萌港も増毛に次げる要港たり、焼尻、天賣の二島は共に葦、爾たる小島に過ぎざるも漁利の大なるが故に有名なり

北見 宗谷港は北州島の北端にあるも温度は甚だ低下せず漁業も亦盛なり

稚内港は宗谷港を距る六里の處にあり、網走港は網走川の河口に於ける一、小港なり、燐枝を産す、利尻島の鬼鷹、鷲泊、井に禮文島の船泊は共に漁業を以て有名なり

釧路 釧路港は同名の川の河口に於ける特別輸出港の一なり、硫黄の輸出に備ふ、厚岸港は東岸唯一の良港にして牡蠣の産あるを以て名を知らる、跡佐登は硫黄を産す、春島に炭山あり、此の國の近海は鱈、昆布等の最好漁場たり

根室 根室港(一、四〇〇〇)は北州島の東北海岸に於ける唯一の都會にして本道第三の要港なるも冬季に至れば流水の害を蒙ることあり、商業は未だ隆盛に達せざるも漁業の中心とし交通の要處として亦有

望の地ならざるに非ず、地方裁判所を始め、其の他に二三の公署ありて市街は殷賑なり

花咲は一の小港たるに過ぎざれども冬季は船舶の出入頗る多し、目梨、標津、四別は流鮭を以て有名なり、和田、太田には屯田兵の駐在するあり

千島 國後島に泊村あり人口六百に足らざるも同島第一の都會なり、港内は船舶を碇泊するに便にして漁業の一小中心たり、又硫黄の産出あり、其の他に秩別、別米、戸賀、東沸、留夜別あり共に漁業若しくは鑛業に従事せり

色丹島の斜古丹村は人口一百に足らざる一村落到過ぎざれども一の良港を有せり

樺根島の内保村は鮭鱒の好漁場たり、人口一百五十餘あり、振別村は往時は稍盛なりしが當今は衰へたり、人口は八十五に過ぎず、紗那村は本島の中央に位する一邑たり、船舶の出入稍頻繁にして商業も亦見るべきものあり、鮭鱒の産地にして鑛鑄製造所あり、人口は六百に達し、其の内舊土人は七十二な

り、年、萌村は人口一百十余を有せり、礮取村は漁業盛なり、人口百六十餘を有せり、
得撫、新知、楓蔭、占守等の諸島には住民なかりしが、近來少しく移住を試みるものあるに至れり

●臺灣島

馬關條約の結果として臺灣島及其の屬島は我が大日本帝國の版圖に歸せり、然れども種々なる事情のあるありて此の地の探檢は至りて不完全なるが、殊に東部を以て然りとす、されば臺灣島に就きては僅に二三の開港場附近の情態を知るの外、全島の山脈の趨勢、河川の流域、平原の配置等に至りては殆ど暗黒世界たり、従つて本島に關する記載は甚だ不完全にして、明瞭正確を缺くこと甚だ多し、讀者之を諒せよ

其一 自然之部

位置 臺灣島の四極點の經緯度を擧ぐれば左の如し

極西 鶯鼻岸 東經一二〇、一五
極東 三貂角 東經一二二、〇四
極南 崑波岬 北緯 二一、五三
極北 富基岬 北緯 二五、一六

境域 北は先島列島に隣接し、東は沙漠たる太平洋に臨み、南は海洋を隔ててエスパニヤ領のヒリヒナス群島に對し、西は臺灣海峡を挟みて清國福建省に接近せり

面積 此の島の廣さに就きては或は三萬四千五百十方糎なりとし、或は一萬四千九百八十方哩なりとし、充分正確なる數は未詳ならざれども凡そ二千五百方里とするもの眞に近からんか

海灣港 本島は日本群島の如くアヲヤ大陸の沿岸島嶼にして太平洋中に隆起せるものなれば、其の海灣港は何れも太平洋に附屬せり、而

して本島の海岸線は屈曲少なく又は懸崖絶壁をなすを以て良港に乏しきも亦多少の小港を有せざるに非ず

太平洋 加禮迎港 蘇澳灣 奇榮港 繡波蘭港 黑石港 拔搖港
猪騰東港

南海(南支那海) 南灣 社寮港 琅瑤灣 風港 東港 打狗港
臺灣海峡 國姓港 安平港 笨港 鹿港 大安港 香山港 竹塹港

淡水港
西海(東支那海) 馬鎮港 基隆港 烏石港

海峡 支那大陸と臺灣島との間に於ける海洋の一部を名づけて臺灣海峡と云ふ、其の幅は百五六十哩に過ぎず、而して澎湖群島と臺灣島との間にある海峡は名づけて澎湖水道と云ふ

島嶼 臺灣島に附屬せる島嶼の中にて主要なるものを列舉せんに

澎湖群島は二十一個或は云ふ五十二個の島嶼より成りて其の主なるものを澎湖島、漁翁島、白沙島の三島とす、此の三島は相集りて一大灣を抱活す、灣内は分れて媽宮港、澎湖港、大倉灣等を形成せり、其の他、北に大烈島あり、南に八罩島、倉島、和船島等あり

小琉球島は東港の西南にありて海岸を距ること凡そ十五哩なりとす、紅頭嶼は南岬の東にありて屬島中の最大なるものの如し、火燒嶼は臺東の海岸を距ること三四十哩の處にあり

小龜山は宜蘭の東北に當る處にあり、鵝鑾島、井に西樓山、島は基隆港の灣口にあり

蘭半島、本島の海岸には屈折彎曲の少なさが故に著しき半島を形成するを見ず、僅に島の南端、恒春地方に於て半島形を呈するものあり、之を恒春半島と稱す

地角 地角に就きて稍著しきものを列舉せんに

- 東海岸 富基岬 馬鑽港 萬人堆角 鼻頭岬 三貂角 土和岬 蘭山角
- 西海岸 撒刺岬 白沙岬 鳳山岬 香山岬 西南岬 南岬

山脈 山脈の趨勢、狀態等に就きては未だ充分なる探檢を経ざれば、確乎たる事實は記述し難きも、要するに主山脈は北部の基隆地方より起りて南部の恒春半島に趨き、脊骨狀を爲して中部を貫けり、支脈も亦少からずして主脈と並行し概ね南北に走駛するが如し、且又本島の山岳は急峻にして頗る高嶺秀峯に富み、直立三千米に達するものも亦少なからずと云ふ、現に本島の最高峯と稱する大龜佛山、即ちモリソン山は直立三千八百六十米にして第二の高峯、祐乃武山、即ちシルピヤ山の直立は三千四百餘米なり

火山質を有する山脈は甚だ多きが如し、殊に著名なるものを紗帽山

と云ふ、直立一千米餘ありて常に硫氣、汽烟を噴出して絶ゆることなし。温泉は少なからざるが如し、雖も泉質井に所在地等は未だ詳ならず、而して地の震すること亦少なしとせす。

河。流。本島は其の形状の狭長にして山脈が南北に走駛するのみならず、降雨時季の偏せるが爲に水量の饒多なる大河、巨流に乏しきも小河、溪流は少なからざるが如し、今茲に本島の河流に就きて稍、著しきものを列擧せんとす。

太和伯河は中央の山脈より出でて加禮遠港に注流せり。

淡水河は本島第一の大河なり、中央の山脈中に水源を發し太姑陷河并に基隆河を合せて淡水港に於て海に注ぐ。

後禮溪は後禮港に注げり。

太甲河は一名を典河と云ひ大安港に於て海に注ぐ。

大肚溪は源を中央の山脈に發し臺灣并に彰化を経て鹿港に注入せり。

笨港河は同名の港に於て海に入る所の河流なり。

淡水溪は東港の附近に於て海に注ぐ。

太平洋の斜面に屬する河流は蕃地にあるを以て未だ之を詳にせず。唯、刺伯河と坦伊以河との存するを知るのみ。

刺伯河は源を中央の山脈に發し歐派に分れて平原を貫流して海に入る。坦伊以河も亦二派に分れて海に入る、其の一は蘇澳灣に注ぐと云ふ、其の他に尙ほ河流あるも明瞭ならざれば之を省く。

沼湖。本島には火山脈少なからざれば山間に湖水の存するあり而して低地に於けるも多少の沼池あるが如し、然れども沼湖の大小位置周囲の情態等を知悉せざれば唯、其の名を掲示せんとす。

巴和亞模湖 古印湖 刺耶湖 刺模湖 格爾米湖 太鳥阿爾湖
而して沼池は北部に多しとす

地勢 本島には北より起りて南に走れる主山脈あり、重峯疊巒は屹然として連綿し中央を貫きて脊骨狀を呈す、支山脈は主山脈と並行して南北に赴駛するも甚だ顯著ならず、山脈の兩斜面は其の傾斜概ね急峻にして緩漫に低下するもの少なく通常内地に觀る所の山岳の姿貌には比すべくもあらず、而して山麓に至れば直に廣漠たる平原の存するあるを見る、されば本島は其の山岳の高秀なるにも拘らず平地は山地より多くして高地臺地の如きは少なし且又本島の形狀は大魚に似たれば其の首に當れる北部は稍廣く、腹に當れる中部は最廣く、尾に當れる南部は其の幅至りて狭小なり
地味は一般に肥沃にして稼穡を施すに適せざるものは甚だ少なき

が如し而して未だ開墾せざるの地には樹木鬱蒼として繁殖し天然の森林を爲す、從て不毛の緒土を見ること極めて稀なりとす

氣候 臺灣の氣候は内地の氣候に比し頗る異なる所あるも、概して甚しく健康を害することなし、溫度は勿論場所に依りて多少の差異あるも、年平均は二十度以上二十五度以下にあり、夏季は炎熱なりと雖、常に諸山より絶えず涼風を吹き降して暑氣を滅殺するが故に夜中は殊に冷涼を覺ゆ、屋内或は樹陰の處は晝間攝氏三十三度に昇ること罕にして夜間は概ね三十度以下とす、冬季は高山の頂上に屢雪を戴くことあり、又平地に於ても或は十度に下がることあるも、周歲寒を覺えず、壯年輩の如き或は袷衣を以て冬季を送るものあり、降雨は時季は一定せざるも、概して春夏に雨少なく、旱多し、秋冬に至れば霖雨時々至り霧の如く、烟の如く、乍ら收まりて又乍ら來る、一日の内、其の陰霽數回往々

數日に連なりて止まず、而して降雨あるときは濕氣忽ち室に充ち、涼風隨て來りて屋内の衣服、各種の物品の如きも殆ど濕氣を含まざるものなきに至ると云ふ、而して一年間の降雨の量は甚だ多からずして平均凡そ二千耗前後に過ぎざるが如し、而して北部には雨重の三千耗以上に達する處あるも南部には一千五百耗以下に止まるものあり、本島は風多く、其の力も亦甚だ強し、殊に北東風を以て然りとす、而して秋季には颶風の起點に當りて損害を蒙むること尠少ならず

天産。本島は氣候温暖にして周歲寒氣を覺えず、土地肥沃にして乾燥に失することなきを以て天然の産物は至りて饒多にして殊に植物に富めり

先づ動物に就きて一言せんに、野獸には鹿、猿、狼、野猪、兎、鼠等ありて内地に觀るものに異ならざるも、亦臭猫、山猫、豹の如き獸類の棲息するあり、家畜としては水牛、騾、馬、豕等を以て多しとす、野禽には鴉、鳩等を始めとし、鴨類も亦少なからず、其の他、蟲類は内地のものと同じく、魚類は鯉、鯖、鱸等あるも其の量は甚だ多からざるが如し

本島が植物に富めるは實に驚くに堪へたり、耕地に米穀、甘蔗、茶葉等の産あるのみならず、山地には森林蒼蔚として頗る良材美果に富めり、樟樹は殊に北部に多くして、山岳の半腹には老杉、巨松の繁茂するあり、又野生の無花果樹、榕樹、烏木等の森林を爲すもの少なからず、其の他、楓樹、楠榔等の良材を興ふるあり、露兜樹、番石榴、李桃等の好果を生ずるあり、而して籐は東部の地に産す

鑛物には産物として甚だ顯著なるもの少なしと雖、是れ或は視察探究の至らざるの致す所ならんか、目下本島の鑛物中に於て首位を占むるものは石炭にして之に次ぐを砂金、硫黃、石油なりとす、其の他、銀、銅等

の鑛脈を發見したりと稱するも實際に採掘せらるゝは唯、石炭と砂金とあるのみなり

其二 政治之部

沿革。臺灣島は往昔本邦人の所謂高砂島と稱せし地にして、支那人が名づけて東蕃或は土蕃と唱へし處なり、西洋人はホルトガル人の稱呼に依りてホルモサと稱す、抑、本島は南の方、赤道附近より流れ來る海流の爲に圍繞せらるるを以て、マレー諸島地方の民族が此の土に漂着して初期の移住民となりしは蓋し疑ふべからざる事實なるべし、されば生蕃中のバイワンデボンの二種族の如きは古來、本島に棲居せしものならんが、其の發達は極めて遅く、今に蠻風を脱するに至らず、而して本地が支那大陸を隔ること甚だ遠からざるにも拘らず、支那人が始

めて來住せしは明の宣德(我が永享年間にして四曆一四三六年より一四三六年)の頃なり、又本邦人が本島の附近を往來して要處を占有せしは倭寇の盛なりし時ならん、其の後、天啓年間(一六二一—一六四四)に至りて流寇顏思齋は臺島に據りて甲螺と稱し大に威を振ひたり、鄭芝龍は顏氏の後を受けて甲螺となり、本島附近の海上に雄飛したり、鄭芝龍の明に歸順して本島を去るや、オランダ人は澎湖島を占領し(一六二七)臺島に安平鎮城を築きて威勢を逞しうせしが、鄭成功芝龍の子にして俗に和唐内の爲に驅逐せられたり(一六六二)成功の本島に來るや東都を建て二縣を置きて持久の計を爲せしが、其の子、經を経て、孫、克塽の代に至りて清に降りたり、されば本島が清國の版圖に入りしは實に康熙二十二年(一六八二)なり、是に至りて清國は一府三縣を設けて之を福建省に隸屬せしめたり、其の後、英球(一六九六)翁飛處(一七二二)林文爽(一七六五)等の亂を起すとあり

たれども遂に清國の羈絆を脱するを得ざりき、爾來民服し治稍、緒に就き、拓地殖民の業大に進歩したり、其の後、咸豐八年（一八五七）イギリス、アメリカ合衆國、フランスの三國と條約を結びて安平、打狗、淡水、雞籠の四港を開きて互市場となしたるを以て益、隆盛に越きたり、明治七年（一八七四）我が兵、土蕃を征し臺東を占領せしが清國償金を出だすに及びて事止みたり、光緒九年我が明治十七年四曆一八八四年安南事件起りて清國フランスと釁あり、福州の勝戦後、フランスは澎湖島を占領し、雞籠を略取したり、和成るに及びて清國政府は本島の守備を忽にするの否を躊りて兵備、行政共に大に改革を行ひたり、本島は福建省の管轄を離れて獨立の一省となりしが三府、一州、十一縣、三廳を設置し、徵稅の法を改め、兵備を嚴にし、砲壘を築き、鐵路を建造して貿易の發達を謀る等頗る活潑の舉動を顯したり、然るに明治二十七年朝鮮事件より日清の戦争となりしが

旭日國は全勝を得て、綠龍國は和を乞ひて馬關に於て條約を締結し、其の結果として臺灣島は遂に我が帝國の版圖に歸せり

人誌。本島に居住する人民は其の種類甚々多く、極めて錯雜せるが如き感あるも、之を大別すれば實に支那種族、哈喀種族、平埔種族、アミヤス種族、デボン種族、バイワン種族の六種となすを得べし、而して此等の民族の中に於て稍、開明に趣けるものは支那種族にして、哈喀種族之に次ぎ平埔種族は熟蕃と稱し、半開の民たり、アミヤス以下の三種族は生蕃と稱して未だ野蠻の風を脱せず

前記各種の民族が本島の住民となりし時代に就きては多くは明瞭を缺けりと雖、亦全く考ふべからざるものにも非ず、されば此等六種の民族を記載するには來住の順序を以てせんとす

第一 バイワン種族 即ち山地蕃族は生蕃中最、古昔より本島に居

住したるものにしてマレー人種に屬せるが如し、軀幹偉大にして皮膚は銅色を帯び性質最も悍猛にして怒り易く鬪争を好み掠奪を縦にし今猶人肉を啖ふの風あり、衣服は膝掛の如きものを以て胸部と脊部とを蔽ひ其の上に鹿皮を以て製したる上衣を着し、好みて中央の山脈地方數千尺以上に達する高處に棲居し専ら野獸を捕獲し旁ら牧畜に従事するものゝ如し

第二 アボニ種族即ち平原蕃族はパイワン種族に次ぎて本島に來りしものにて是又マレー人種に屬するが如し、身幹は稍小にして氣質も亦温和なり、然れども大體の風俗は野蠻にしてパイワン種族と同小異なり、衣服には脛衣と胸當とを用ひ、寒冷の候には牛皮の外套を着し又文身するの風あり、而して此の種の民族は河岸、海岸に居りて獵獸捕魚を爲すの外、平原に住みて耕作を業とせり、其の他、木工、金工、等ありて半開化の種族たるに近し

第三 アミヤス種族の本島に來住せしは前記の二蕃族の後にして漂流人の子孫なるが如く或はホルトガル人の後なるべしと云へり、されば身體骨格も他の蕃民と異なり全身多毛にして筋骨皮肉頗る發達し風俗習慣も亦異なる所多し、而して他の蕃族の知らざる新年の祭を爲が如き稍進歩の狀を呈するも社交上、他の蕃族に外人視せられ對等の交際を爲す能はざるは漂流人の後たるの故ならんか

第四 平埔蕃族も亦一の移住民なるも前の三種とは異なりて半開の民族たり、支那人の所謂熟蕃なり、體格強壯にして力役を厭はず、性質順良にして頗る活潑なり、能く農事を務め又漁業を好み、されば臺灣島の南部及び西部に住して支那人を始め其の他の外國人と共に雜居するを嫌はず、生存競争の場裏に立ちて進化を企むの資を備ふるもの

と云ふべし、此の種の民族は他の蕃族と異なり、北方の沖縄列島より移住したるものなるべしとの説あり

以上の四種族には多少の差異の存するありて或は生蕃と云ひ或は熟蕃と稱するも、要するに蕃民にして文字なく宗教なく教育の何たるを知らず、僅に單簡なる生業に依りて幼稚の生活を營むに過ぎず

第五 支那人種は前記の四種族より後れて本島に來住したるものなれども文明の度に於ては遙に優等に位せるを以て、前住者たる種族を荒蕪の地たる東方の一部に退け、自ら居を西方の平野に占めて、遂に現今の情況を呈するに至れり、抑、此の種族が始めて本島に移住したるは朱明の頃にして其の後、清朝の世と成りては來住するもの愈々多く拓地殖民の業舉がりて益々盛大に趣き、此の土をして一省とは成じたるなり、されば往昔の移住に係る支那人は今尙も明代の餘風を存し

男は耕作に従事し婦女子は刺繡裁縫を業とし自ら優雅なる所あるに似たり、而して近代の來住者は概々福建省、廣東省等の人民なれば故國の風俗と大差なく、男子は辮髪し女子は縮足を好む、又蒜を嗜み、鴉片を吃するの惡習を有せり、言語は重々に福建省南部の土音を用ひ、交ふるに廣東省の土音を以てす、殊に廈門土語を用ふるもの多し、宗教は多くは儒道を尊むも又佛教を信じ稀には耶蘇教を奉ずるものあり、教育は未だ充分の發達を見されども學校の設けありて經書、史類等を講讀せしむと云ふ

第六 哈喀種族は即ち客家にて外觀は毫も支那人と異なる所なきも、支那人は此の種の人民を指して客人となし、化外の民と認め常に和親するを欲せずして争鬪絶ふることなし、而して此の哈喀種族は多く中央山脈の附近に棲住するを以て俗に内山の客人と稱せり、又此の種

の民族は何れの時代に於て渡臺したるやは詳かならざれども、元末の頃、山東地方より來住したるものならんとの説或は眞に近からんか。

臺灣島に棲息する人民は概々前記の如し、而して日清事件の結果、戦勝の餘光を擔ひて最後に渡來すべき人種を誰となすか、大和民族は其の性情に於て、其の智識に於て、遂に支那人の上にあらず、旭日種族が企圖する所果して如何ぞや、兵戰に於て全勝を得たる我が國民は商戰に於て如何の働をか爲す、天候の炎熱、道路の險惡、等を恐れずして勇戰したる我が國民は、拓地、殖民、航海、貿易の事業に對して、猛進するの勇力あるか、是れ世界各國が刮目して注視する所ならん。

而して人口の多少に就きて一言せんに正確なる調査の存するなきを以て素より眞數を得るに由なし、今茲に概數を擧ぐれば全島の人口は凡そ三百萬にして、其の中の大多數は支那人にして、凡そ二百五十萬

に達すべし、又人口の最も稠密なるは西南部の臺南地方にして之に次ぐものは北部の基隆、淡水の地方なるべし。

行政。本島が我が版圖に歸せしより以來、日尙ほ淺く武力を以て鎮壓するの必要ある今日に於て、假に軍政を施行するは又止むを得ざるに出づと雖、此の地の治安を維持すると發達を助成するとの目的に依りて適當なる行政機關は設置せらるべし、或は從來の弊習を芟除せん爲に根底的の革釐をなすか、或は激變の害を避けん爲に徐に事を謀りて因習的に改良を施すか、二者の中、何れに依るかは未だ知るべからず、斯る未定の場合に於て行政區劃に就きて云々するは或は徒勞に歸するも知るべからざるも將來の新令、改正等に對して參考の資料とも成るべければ、清國政府が光緒十三年（我が明治二十年）に劉銘傳等の奏議に據りて制定したる區劃に就きて其の梗概を指示することゝせり。

臺灣全島並に屬島を總括して一省とし之を臺北、臺灣、臺南の三府と臺東の一州とに大別して統治分轄し其の下に廳若しくは縣を設けたり、されば本省には三府、一州、三廳、十一縣の區分あり、今左に一表を作りて其の大要を指示せり

臺北府 北部の地を管す、分ちて一廳三縣となす、人口凡そ九十萬
基隆廳

淡水縣 新竹縣 宜蘭縣

臺灣府 西部の地を管す、分ちて一廳四縣となす、人口凡そ三十萬
埔里社廳

臺灣縣 彰化縣 雲林縣 苗栗縣

臺南府 南部の地を管す、分ちて一廳四縣となす、人口凡そ百六十萬
澎湖廳

安平縣 鳳山縣 嘉義縣 恒春縣

臺東州 東部の蕃地を管す、別に之を區分せず、人口凡そ二十萬

臺灣省を總轄する長官は總督にして文武の諸官を督統して全島の政權を司掌す而して地方には知事以下の民政官を置きて管下の行政を司らしめ、其他、開港場には税關を設けて貿易の事務を掌らしむ
租税 本島は面積の甚だ多からざるのみならず、田園も未だ充分に開けざれども、米及び甘蔗の如きは一年に二回以上の收穫を與ふるを以て、生産力は比較的に大なりとす、従て本島より得る所の歳入が比較的巨額に達するも敢て怪むに足らざるなり、今茲に最近の税額なりと稱するものを列擧せんに

税金 三八〇、八六六〇兩

徵米 二一〇、四一〇石

關稅

一九三、二八九五兩

なれば徵米を換價して合計を求むるに凡そ六百五十萬圓を得るなり、此の金額たるや甚だ大ならずして且又正確を缺かざることは保證なし難し、然れども本島現時の情態より考ふれば頗る嘉みすべきものなきに非ず、されば將來、此の土をして善良なる政治の下に置きて荒蕪の地を開墾し森林の利を收用し、其の他各般の事業の擴張を企るに於ては本島の生産力をして大に増殖せしむるを得るや明なり、帝國の一大富源たる此の土をして有効ならしむると否ざるとは實に吾人之が責に任せざるべからず

生業 拓地殖民の事業が未だ其の半にも達せざるの今日に於ては生業の發達の充分ならざるは素より論を俟たず、而して半開の境遇に在る本島は其の生産力を、生業發達の通則に違ふことなく、主として農

業に求むるもの、如し、今左に本土の住民が従事する業務の概況を記述せんとす

獵獸 本業は山地土蕃の最も得意とする所にして、平原土蕃并に熟蕃も亦之に従事せり、而して本業に依りて得る所の主要なるものは鹿、山猫、野鷄の類なり

牧畜 本業は甚だ盛なりと云ふに非ざるも、本島の住民は其の種族の如何に拘らず、一般に家畜を飼養せり、而して蕃民は主として牛羊を養ひ支那人は好みて家豚、家鶏を飼ふもの、如し

漁業 四圍に海洋を扣へたる此の土に於て多少の水産物あるは勿論なれども、亦北州島近海の如き豊漁の地に非ず、然れども沿海の地に住する人民には多少捕魚を業とし採草を務とするものあり、而して打安平附近の魚鱒并に基隆近海の石花菜等は稍、其の名を知らる

林業 本島の山岳地方并に未開墾の平原には天然林の存するあるが故に林産物も亦少からず、就中樟腦には多額の産あり、殊に彰化縣附近を以て最とす、而して之に次ぐものは木材にして杉山ハイマツ、闊心柴クワンシンサイ、加冬柴、石柳柴、檳榔、樟板等を産せり

鑛業 本業は未だ盛ならず、唯、砂金、石炭、硫黄等の採掘に従事するのみ、砂金は淡水河の上流に産し、石炭は基隆、暖々、錫口等に産し、硫黄は臺北附近の紗帽山、北投油坑等の地に産せり

農業 本島は土地豊饒にして周歲寒冷に過ぐるの候なきのみならず、主要の住民たる支那人が其の性耕耘を好むを以て此の地の住民の生業中最、發達せるものは農業なりとす、而して農産物の中にて最、顯著なるものは米穀と砂糖にして之に次ぐものを茶となす、米穀には白穀、双冬、早冬、江米、烏米等の數種ありて開拓したる地に於ては何れも

之を産するもの、如し、砂糖には赤蔗と竹蔗との二種あり、産地は本島の南部にして臺南府を中央とし、南は恒春縣の琅璫より北は嘉義縣の北港までの沿海一帯にあり、農産製品には茶葉と落花生油とを以て最、著しきものとす、茶葉は北部臺灣の一大産物にして茶園は重に淡水縣基隆廳の地方にあり、落花生油は食品或は燈火に用ふ、南部臺灣の重要産物たり

工業 單簡なる日常の器具を作るか若しくは黄梨糸、生蕃布、蓆等を製するに止まりて眞に工藝品として見るべきものあるを聞かず

商業 本島内部の各處に行はるゝ商業は未だ盛況を呈するに至らざるも、外國との貿易は稍、著しとす、抑、本島が近隣の諸國と交通を始め貿易の端緒を開きしは宋の紹興年間にありと云ふと雖、土地の開けざりしと良港に乏しきとに由りて其の發達は遅々として顯著な

らざりき、然れども近年に至りては、東洋の貿易が一般に隆昌に趣くと共に本島の貿易も亦漸く旺盛ならんとするもの、如し、今茲に光緒十七年（一千八百九十一年）頃の景況を記述せんとする

本島の貿易港は安平、打狗、淡水、基隆の四ヶ所とす而して此等の諸港に依りて輸出する主要の物品は米穀、砂糖、茶葉、樟腦、石炭等にして輸入品の主なるものは阿片、綿布、絨類、雜貨等なり又此等の物品を港に依りて分別すれば

港名	輸 出	輸 入
基隆港	石炭	阿片、綿布、海産物、雜貨
淡水港	茶葉、樟腦	
安平港	米穀、砂糖、樟腦	阿片、綿布、裝飾品
打狗港	砂糖	

又内地より臺灣島に輸送する貨物は綿布、海産物、マツナ、雜貨等にして同島より内地に輸送するものは重、に砂糖なりとす

次に蕃民と支那人との間に行はるゝ交易は重、に南方の寶藏地方にあり、而して該地方へ輸入する物品は綿布、鐵器類にして、蓬船が歸航する際には大麥、籐、皮類を以て載貨の主要なるものとすと云ふ

次に輸出輸入に就きて價額を記すれば

	基隆、淡水	安平、打狗	合計
輸出總額	四七七、六一〇三	二五二、六七六三	七二九、二八六六
輸入總額	三三八、六九三四	二三〇、五三七六	五六九、三三二〇
清國輸入	七七、二三六七	三二、二六九三	四六〇、七二四九
他國輸入	二六一、四五六七	一九九、二六九三	一〇八、五〇六〇
輸出入全額	八一六、三〇三七	四八二、二二三九	一二九八、五二七六

交通 交通に關する機關は極めて不完全なるも尙も多少の記すべきものなきにしも非ず、道路は臺北を起點とし東は基隆、西は滬尾、南は臺南を経て打狗、恒春に至るの公道あれども其の築造の粗惡なる、橋梁なく傾斜強く極めて不完全なり、されば車馬の往來は勿論、徒歩者も亦大に不便を感せり

臺北—基隆—宜蘭—蘇澳

臺北—滬尾

臺北—新竹—彰化

嘉義—臺南

鳳山

打狗—恒春

埔里社

安平

下淡水—卑南

鐵道は光緒十四年(明治二十一年)を以て業を臺北に起し、北方は基隆に達し、南方は新庄、卑角を経て新竹に到れり、同十七年(明治二十四年)一月より營業を始めたれども線路の築造、橋梁の構造等は甚だ粗惡にし

て危険も亦少なしとせず

臺北—基隆

臺北—新庄—卑角—新竹

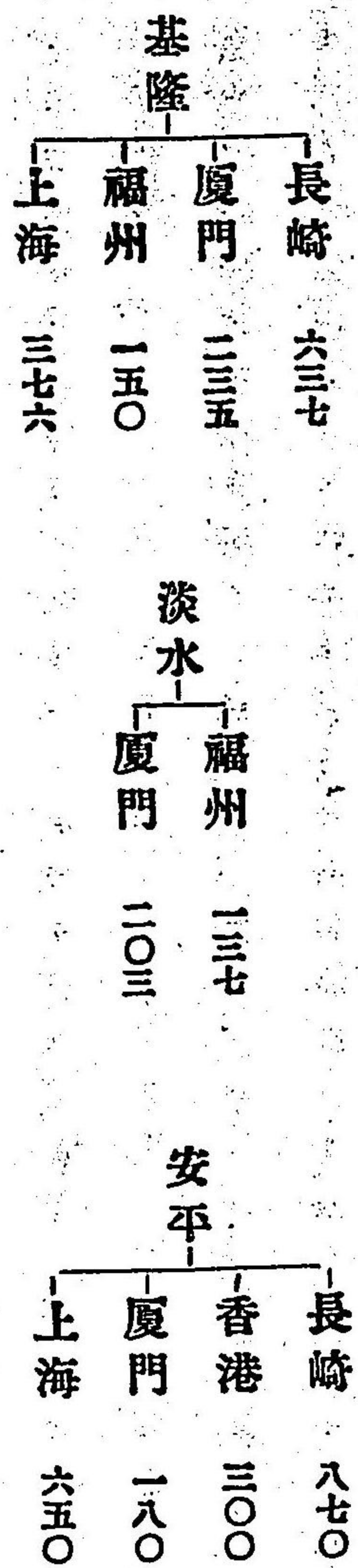
水路は海路を主とせり、蓋し本島の河流沼湖の數、甚だ饒多なるにも拘らず、概して細流小池に過ぎざれば、通舟の便益を與ふるものは極めて少なく、唯、北部の淡水河は少しく之を交通上に利用せり

本島の貿易港と外國の各港との間を往來する船舶は總べて外國船にして稀には内地の商船も寄港することあり而して島内の間を往復するものは支那形の帆船にして所謂蓬船なり

港の中にて主要なるものを列擧すれば基隆、淡水、安平、打狗の四貿易港の外に鹿港、東港、蘇澳港等ありて地方の商業に従事せり

四貿易港の中にて、打狗は近時漸く衰色を顯せるを以て船舶の出入

は砂糖時期の外、至りて稀なり、されば自餘の三港と關係諸港との海路の裡程を掲載せん



本島の電信線は未だ全島に普ねしと云ふに至らざるも、北部并に西部の重要なる市街の間を連絡せり、由て左に略表を作りて電信局の所在地と電信線路とを指示せり

基隆—臺北—臺南—安平—打狗
而して海底電信線は二條ありて一は滬尾と芭蕉山(福州府連江縣)との間にし

て本島と支那大陸とを連絡し、一は安平、瑯宮線にして本島と澎湖島とを連絡せり

本島には目下官設郵便としては野戰郵便の外、未だ普通郵便の設置なきも、從來本島の重要市街に於ては私設の郵便局ありて信書の送達を業とするものあるも至りて不整頓にして素より信を置くに足らず、殊に着達の遅緩なるは實に驚くに堪へたり

臺北府

臺北は四面に山巒を繞らし淡水河の流域に當り平坦開濶の地にあり、少しく北方に偏するの嫌あるも淡水、基隆の二要港を控ふるを以て本島の首府たるに適するが如し、總督府即ち舊省城は清曆光緒八年(我)五明治十の新築に係れり、城郭は支那風の古式にして殆ど四角形を爲し

南に二門、東西北の各に一門を備ふ、市街は規模頗る廣大にして大街は六間、小巷と雖、二間以上ありて普通の支那市街の如くならず、然れども新開の地なるを以て未だ繁華たるに至らず而して神社としては文廟、武廟、天后廟の三廟あり、其の構造は何れも壯麗なりと云ふ、府城の西門外、淡水河に臨みて一大市街あり、艚舨と云ふ、此の地は舊來の瑪口にして戸數二千餘を有せり、商店櫛比して頗る殷賑を極むるも街衢は陋穢にして支那市街の眞面目を顯せり、而して此の地の特有産物としては竹細工あり、又北門外にも一の市街あり名づけて大稻埕と云ふ、此の地も亦淡水河に臨みて艚舨の如く舊來の瑪口たり、本島北部有名の産たる茶葉の集散地にして商業甚だ隆昌なり、此の二市街と城内とを合せて戸數は凡そ四千五百許にして人口は凡そ三萬餘ありと云ふ

淡水縣 滬尾港は一に淡水港と云ひ臺北を距る凡そ五里、淡水河の

海に注ぐ處にある一港なり、河口の濶さは十七八町ありて中央の深さは十一丈に達するも兩岸は水淺く船舶の碇泊に便ならず、此の地に貿易市場を開きしは清曆咸豐八年我朝四年にして爾來漸く隆盛に趣けり、輸出品の主要なるものは茶葉にして之に次ぐものを樟腦とす、市街は淡水河口を溯ること十五町許の右岸にありて背面に山岳を負ひ前面に清流を帯びて遙に外洋に對せり、其の風景頗る美なり、住民は専ら商業に従事し富豪家多く氣風も亦甚だ野鄙ならず、而して居留地には各國の領事館ありて外國人の居住するもの亦少なからず、港口の兩岸恩奴と峨土とに砲臺を築きて不虞に備ふ、又港の北岸撒刺岬に燈臺の設けあり

基隆廳 基隆港は一に鷄籠と記す、臺北を距ること九里にして滬尾港より海路凡そ二十五哩の處にあり、港は東西南の三面に大鷄籠山の

如き山岳を扣へ僅に北方の一部に於て外海に通せり故に此の港は西
南風を避くるに適するも東北風を防ぐを得ず港の濶きは二十餘町に
過ぎざるも灣入すること凡と二里なれば船舶の碇泊に便にして一の
良港たるの感あるも潮流極めて急激なるを以て小體の船舶は出入す
るに當りて大に困難すと云ふ此の地に貿易市場を開きしは清曆同治
二年^{我が文}なるが主として石炭を輸出せり港の南端に城郭を築きて
其の内に廳治の官署兵營等を置き市街を設く街衢は陋穢にして觀る
に足るものなきも住民は能く其の業を勵みて風俗も亦淳朴なり

八斗、其の他、數ヶ所に炭山あり、圓(一五〇〇)は稍繁華の地とす

宜蘭縣 宜蘭(六〇〇)は番と噶瑪蘭と稱せしが置縣の際に今の名に改む、

此の地は縣城の所在地にして住民中には熟蕃甚だ多しと云ふ加禮道港は微々たる一小市街に過ぎざれども商業は稍繁昌なり、蘇澳港は人口六百に足

らざる一村落なれども港内水深く船舶の碇泊に便なる良港にして甚だ有望の地とす

新竹縣 新竹は農業の盛なる土地の中にありて人口は一萬七千を有せり、縣城は平地にあり石と煉瓦とを以て造りたる壁を繞らせり、此の内に縣廳、兵舍、練兵場等ありて市街は稍繁華なり

香山港、中港、後龍港、通霄港等の諸港は總て海水淺く大船の碇泊に便ならず

臺灣府

臺灣は本島の中部にありて首府を設置すべき地として撰定せられたるものなれども開始したるは近年にして僅に城郭を築きたるのみ、されば人民の此の地に居住するもの甚だ少なく未だ完備せる市街を爲すに至らず、然れども城内には官署の設けあるのみならず又街衢を區劃せり、此の地は大吐溪の沿岸にありて風景は甚だ賞すべきものあり

りと云ふ

臺灣縣 本縣は未だ充分に拓殖せられざるの地なれば記するに足るの名
邑なく唯、村落として三塊厝、寶斗仔等は稍、著しきものなるが如し

彰化縣 彰化は中部臺灣の第一の都會にして哥爾米河の南岸にあ
り、市街は清曆雍正十二年享保十九年四曆一七三四年の始設に係り、縣城は煉瓦を以
て之を築きて四門を備ふ、住民は、凡そ二萬と稱す、繁華の地なり、鹿港は、
商賈輻輳して貨物の集散地となす、此港のは清國福建省泉州府の蚶江
と相對し本島より渡清するに海程の最、近き處とす

雲林縣 雲林は蕃地に接し山間に僻在するの地にあり

苗栗縣 苗栗は縣城を建設すべきの地なるも目下は一の村落たるに過ぎ
ず

埔里社廳 本廳は蕃地に新設したるものにて其の情況未だ詳ならず

臺南府

臺南は從來、本島の首府たりし處にて舊と臺灣と云ひし地なるが、臺
灣省を設置せし際に省城を中部の彰化附近に創建せしに依り改めて
臺南と稱するに至れり、府城は雍正元年享保八年一七二三年の創始に係り四大
門三小門の七門の設けあり、官署、貢院、寺院、豪商の居宅等多くは城内に
ありて、樹木の間に見えて風色甚佳なり、市街は長方形にして長さは
一里許あるも幅は半里に過ぎず、道路は狹隘なるも家屋の建築は稍、
美麗なり、内郭の東南に當りて海岸に近き處は商業甚盛なり、而して
市街の周圍に墻壁を繞らして外郭となす、此の地の貿易は隆昌ならざ
るに非ざるも良港なきが爲に充分の發達を見る能はざるは甚だ遺憾
なりとす、然れども米穀、砂糖等の輸出多く又阿片并に其の他の雜貨を
輸入するは年々増加するもの、如し、市民の風俗は一般に温和淳朴に

して明末の遺風を存し男子は商業或は農業に勉勵し婦女は織物若しくは縫箔を常業とせり而して人口は凡そ十三萬なりと云ふ市街の中
央并に近傍に數ヶ所の古壘あり往昔和蘭人の築造せしものなりとす
安平縣 安平港は臺南の西方凡そ一里の處にあり船舶の碇繋地は
海岸を距る一里許にして砂洲多く波浪常に激揚し殊に西南の季候風
に對しては安全を保つ能はず然れども此の地は臺南の附庸港にして
百貨は盛に輻輳し船舶の出入は頻繁なり實に本島四港の一たるに恥
ぢず貿易市場を開始せしは咸豐九年安政五年西曆一八五八にして爾來漸く盛況
を呈するに至れり市街は未だ大ならざるも人口は凡そ三千あるべし
本港と臺南との間の道路は平坦にして車馬の往來に便なるのみなら
ず又一の運河の通するありて貨物の輸送には至りて便利なり港口に
三座の砲臺を築きて有事の時に備ふ附近の地に古壘あり是れ又

往昔和蘭人の築きし所なりと云ふ

嘉義縣 嘉義縣は舊と諸羅と云ひし地にして臺南を距る十里の處
にあり交通上一の要區たり縣城は石と煉瓦とを以て之を築き四箇の
大門を設け繞らすに壕渠を以てす人口は凡そ一萬五千ありと稱する
も多くは農業に従事するを以て商業は甚だ盛ならざるが如し住民の
風俗は概して淳朴にして浮薄ならず

笨港は本縣下第一の港にして一名を下湖口と云ふ商業は稍繁華
なり其の他井仔脚鹽水布袋猴樹等の小港あり

鳳山縣 鳳山は臺南を距ること凡そ十里の處にあり縣城は規模甚だ
大なるにあらざるも乾隆五十三年天明八年西曆一七八八林爽文の亂後の創建に
係れり官衙を始め寺院商店等悉く城内にあり此の地は南端地方の貨
物の集散するが故に商業は繁昌なり抑本地は創設の際は氣候不順

にして瘴癘地と稱せられしが今は無害の土となりて住民は日に増殖し風俗も亦淳朴なり、打狗港は一名を旗後と云ひ臺南を距ること十五里の處にあり、本島貿易港の一なれども港口狹隘にして錨地は水底淺く中體以上の船舶は碇繋する能はず、されば砂糖を盛に輸出するに際しては商船の輻輳するあるも平常は稍寂寥たるを免れず、住民は農と商との二業を營み、人口は凡そ一萬餘と稱せり、又港口の西岸に砲臺を築きて不虞に備ふ、東港は下淡水灣の河口にありて普通の商船の出入には便利なる良港なり、本港は米穀の生産に就きて有名なる地方にあるを以て年々多量の米穀を清國へ輸送せり

小琉球島は東港より凡そ二十哩の處にあり、人口は二千餘ありて漁業を専らとし傍ら農業に従事せり

恒春縣 恒春は本島の南端に位する地なるが近年の新設に係るを以て未だ

一市街たるの觀を呈するに至らず、又本縣下に射寮港、楓港等の如き船舶の一時寄港するに足るの港灣なきにしもあらざれども何れも水淺く暗礁多くして大船巨舶の定繫に便ならず

澎湖廳 媽宮は澎湖廳の所在地にして臺南府を距ること凡そ四十哩の處にあり、媽宮港に臨み周圍に堅牢の墻壁を繞らし廣袤は各半里許にして市街は其の中にあり、此の地の商業は鹽魚、落華生、豕、鷄、并に鷄卵の類を輸送して米穀、甘蔗、菓物等に換ゆるにあり、人口は凡そ五千と稱す、當港の附近に三座の砲臺を設けて市街を掩護せり

臺東州

臺東州とは殆ど本島の東部全體の稱にして廣袤の大なる他の三府に勝れたり、然れども本州は生蕃の巢窟にして荒蕪の原野多く治化の及ばざる處なれば僅に蕃民の部落の存するのみにて未だ市街と稱す

べきもの更になし而して部落の中にて稍記するに足るものは噶仔
蘭と繡坡蘭あるのみ此の噶仔蘭は臺東州を設くべきの地なり又繡坡
蘭は州の中部にありて一の小港を有し近傍には二三の村落ありて土
蕃の集合地なりと云ふ

紅頭嶼は臺灣島の東南二十六哩にあり本島の住民は其の風俗アミヤス種
族に似たる所ありて耕稼の事を知らず専ら漁業と牧畜とを以て生計を爲す
火燒嶋は寶藏蕃地を距ること凡そ二十哩の地にありて人口は凡そ五百餘
あり

中等地理教科書本邦地誌終

明治二十九年二月十七日印刷
明治二十九年二月廿四日發行

著作者

野口保興

發行者

目黒甚七

發行者

河出靜一郎

印刷者

橘磯吉

東京市京橋區弓町
二十四番地三協合資會社

東京市日本橋區本町
木町一丁目廿一番地

東京市京橋區南傳
馬町二丁目五番地

東京市本郷區駒込
四丁目十番地

本邦之部
定價金九拾錢

版權
所有

高等師範學校教授 野口保典先生著

中等地理教科書

洋裝脊革
美本

本邦之部

定價金九拾錢
郵稅金拾錢

外國之部

近刻

地文之部

近刻

同先生著

中等輯製新地圖

本邦之部

近刻

外國之部

近刻

72
319

